

新春の山 2011 1・2月

●表紙「北岳パットレス」(南アルプス)……松田俊男

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				



初雪山華やぐ (西村文男)

● 冬山の装備	権上俊雄	2
● 例会コース		
● 岩籠山インディアン平原	編集室	3
● 菅並から妙理山	編集室	4
● 山行計画		5
● 個人紀行		
● 冬の伊吹山	海老原睦治	15
● 外鎌山から栗原廃寺	木村太郎	17
● 霧降山から池木屋山	大西脩郎	30
● 連載		
● 三角点を訪ねて「雲山峰から旭石山」	磯部 純	20
● 標高による山の紹介 △△16の山	松田敏男	26
● 文学歴史ハイク「鞍馬山に牛若丸を訪ねて」	松永恵一	34
● 旗振り通信の研究「テレビで紹介された旗振り山Ⅱ」	柴田昭彦	44
● レポート		
● 卯年の山	生駒登峰	14
● 山の地名を歩く「福尾岳」	西尾寿一	23
● コースガイド		
① 百瀬川上流から近江坂	長宗清司	38
② 宇佐山	松尾一郎	40
③ ミクネ・大杉大王	磯部 純	42
● キヤラリー		
● 近江の山 ―花暦― 新春	山本武人	28
● フォトエッセイ「雪下出麦」	松永恵一	32
● 西表島にて	武市通治	36
● 投稿		
● 今村克美・芝義雄・高岡富美子・西村敏夫・長宗清司		62
● 山行報告		50
● 新ハイサービステアーン		48
● 原稿募集・会員募集・新入会員紹介・広告案内		64

冬山の装備

檀上 俊雄



スノーシューで三重嶽に登る

冬山には冬枯れの山歩きと雪山登山がある。雪が積もっていない山では特別な装備は必要なく、セーターでも着て暖かくして行けばいい。持っておけば快適というものでは木枯らしから身を守るウインドブレーカー、耳を隠すことができる毛糸の帽子、指が軽

快に動かせる防水仕様のフィールドグロフ、そして保温性の高いテルモスくらいだろう。

これが雪山となると身にまとうものから持ちものすべてに徹底してこだわる必要がある。基本的には夏山の服や装備はほとんど役に立たないと考えておくのが懸命だ。役立つのはゴアの雨具やロングスバツくらいだろう。

関西の低山では湿雪であり、雨になることも多く、下手なオーバーソボンやヤッケよりはゴアの雨具がいい。シューズは雪の上を歩くことから軽登山靴や靴底のナイロン生地の特レッキングシューズは論外であり、厚手の皮を使った冬山の靴、最低でもオールシーズンのもが必要だ。

そして、寒さに強く、汗をかいても冷たく感じない純毛の下着、靴下、ウエアは欠かせない。発熱素材のものは一定の条件下で効果があるが、濡れた時はあまりあてにならない。即乾性のアンダーウエアも冬にはおすすめでできない。手袋もスキー用のものが使いやすいが、濡れた時のためにインナーの替えを用意したい。最も濡れやすく寒さがこたえるのが手であり、さらにオーバーミトンも併用すると快適だ。帽子も万が一を考えれば毛糸の目出帽に限るが、最低でも耳を隠すことができるものが必要だ。

防寒の極め付きは薄手のダウンであり、軽くてその暖かさはセーター類とは雲泥の差で、雪山で夜明けかということも想定しておくとするればこれは欠かせない。山上の氷点下10度以下の気温、吹雪による体感温度の低下、雪や汗による濡れという冬山の悪条件に加えて、関西では冬とはいえ雨の

想定もしておく必要がある、服装は100パーセントくらいの気持ちで準備することが求められる。

冬山をこれから目指そうという人は、日常生活の中であらかじめこうした服を着て機能性を体験しておきたいものだ。デザインもよくなって街でも違和感もないことから、山の服装で一本化する経済的で無理がない。

準備が万全であれば、雪山は感動的で楽しいかぎり。そして雪山に欠かせないのがスノーシュー。私はこれで高島や余呉の山に親しみ、労力的にも時間的にも大幅に軽減され、ほとんどのピークが日帰りで可能となった。沈みがワカンより少なく、踵が上がることで体力の消耗をおさえ、裏のスパイクや滑り止めの確に使えるクラフトした急坂も快適に登ることが出来る。さらにこの道具の大きな利点はくだりにある。ストックワークでわずかな滑りを活かして小走りで進めばスピーディかつ快適であり、あっとい間に登山口へ。

冬になると登山はお休みという人がいるがもったいない話だと思う。日帰りで楽しむ雪山は無雪期では味わえない感動的な世界であり、安全快適に雪に親しめば不思議なほど元気となり、風邪知らず。転んではかりでおもしろくないという人は無雪期からダブルストックを使って、ともかくにも慣れることに尽きる。幸い関西は身近に雪山があつて、特に高島や余呉トレイルではツアーも行われ、日帰りでスノーシュー登山が楽しめる絶好のフィールド。ホームグラウンドの好きな山に春夏秋冬親しめば、登山の醍醐味はこれに尽きるということになるだろう。

岩籠山 インディアン平原

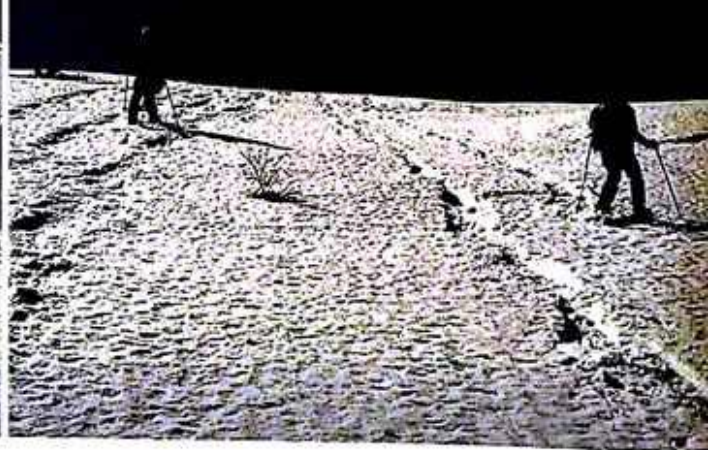


岩籠山インディアン平原

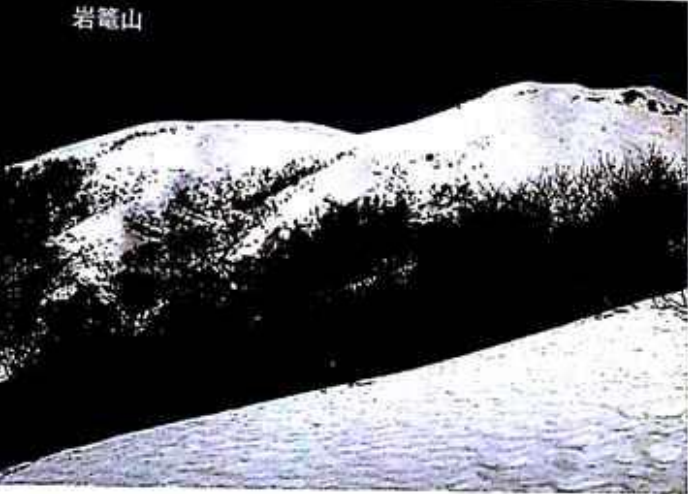


ブナ林

岩籠山を駆けおりる



岩籠山



1月16日(日)例会 コースガイド

真冬の積雪時に岩籠山のインディアン平原を訪ねてみよう。雪の大平原に立てば大パノラマが展開する。

国道161号沿いの駄口にあるドライブイン「篠原」を目指す。断れば駐車可能だ。案内板があり、登山口がある。

30分で尾根に上がる。雪が深くなるので足元を整えよう。スノーシューが快適だが、ワカンなどが必要になる。

左手の尾根を登っていく。三角点ピークを過ぎ、しばらく行けば大岩が立ちはだかるが、捲くようにテープが案内してくれる。やがて左手に眺望が開けてきて、先のピークに登りつければ一気に360度の展望が開ける。

しばらくならかな尾根歩きになり、やがてまた急なつて次のP677に登る。こもすばらしい展望だ。

ピークからは右折して行く。ブナ林が現れ、素敵な風景が展開してくる。平坦で広いブナ林の尾根歩きが続き、雪の中にトレースを付けて歩く気分は最高だ。

ガレ場の鞍部にくだると、前方にインディアン平原の一角が見えてきて、登高欲が一気に盛り上がる。ブナ林を左手

に見て、右手には展望が広がる。P708に登り着いて左に廻り込み、最後の斜面を登り切ればインディアン平原に到着だ。(村田)

コースタム (積雪期)

駄口(20分)尾根(40分)大岩(40分)ブナ林のピーク(15分)ガレ場(1時間)インディアン平原(2時間)駄口

地形図 2万5千II教習・駄口

岩籠山インディアン平原付近図



駄口



菅並から妙理山

菅並と背後には金鷲岳



妙理山から七々頭ヶ岳



東尾根をくだる



妙理山付近図

2月16日例会会 コースガイド
 妙理山は、洞寿院をめぐる四つの青山のひとつに当たる。こ
 とから、新春の山にふさわしい。青山とはこの妙理山と、横山
 岳・安蔵山・七々頭ヶ岳をいう。
 余呉トレイルクラブによって淀川水源の森ルートとして整
 備された。厳冬期にこのコースをたどってみよう。樺坂からも
 登れるが、やや傾斜のゆるい菅並からが長いが登りやすい。
 六所神社の高時川側の裏に廻り尾根に取り付く。始め急斜
 面で慣れない人は四苦八苦するが、尾根に出るとゆるやかな
 となる。洞寿院の裏山あたりで立派なブナ林を抜け、尾根を外
 さないよう進む。再びブナの森に変わると、雰囲気は一変する。
 急な尾根を登ったピークが東妙理山。ここから妙理山まで
 1時間足らずの行程で快適なブナ林歩きとなる。尾根を忠実
 に進み西から北に直角に曲がると、その先は尾根が細くなり
 たどりやすくなる。そして、わずかな急斜面を登り切ると山頂
 に着く。木立越しに横山岳・三國岳・上谷山といった高時川源
 流の山々が望めて圧巻だ。
 帰路、雪に埋もれた菅並の集落など、プリューゲルの「雪景
 色の狩人たち」の絵のようだ。
 最後の急斜面は、ツボ足で慎
 重に降りるといい。(種上七)

コースタイム

経験者であれば登り約3時間
 30分、下り約2時間30分

問い合わせ

余呉トレイルクラブ (ウツテ
 イバル余呉内)

☎0749-86-4145

地図 「余呉トレイルマッ
 プ」2万5千

新春の山
(1・2月)

山行計画

1月	曜	地域	グレード	行き先	定員	保	備考	チェック
1	土							
2	日							
3	月							
4	火	六甲	★★★★	六甲最高峰	10	古賀		
5	水							
6	木							
7	金	丹波	★★	行者山～湯の花温泉		村田		
8	土	紀北	★★	熊野古道・布施屋駅～海南駅		狩野		
		美濃	★★	金華山	10	山田		
9	日	鈴鹿	★★	松尾寺山～高取山～向山		岩野	マイカー	
10	月	京都北山	★★★★	棧敷ヶ岳～天童山	40	村田	貸切バス	
11	火							
12	水	洛北	*	左大文字～衣笠山		仲谷		
13	木	泉南	*	高森山～四国山	25	西上	貸切バス	
14	金							
15	土	室生	★★	額井岳～戒場山	6	中	マイカー可	
		紀北	★★	熊野古道・海南駅～紀伊宮原駅		狩野		
16	日	若狭	★★★★	岩籠山インディアン平原		村田	マイカー可	
17	月							
18	火	京都北山	★★	地藏山		仲谷		
19	水							
20	木							
21	金							
22	土							
23	日	鈴鹿	★★★★	総向山		岩野	マイカー	
24	月							
25	火							
26	水							
27	木							
28	金							
29	土	敦賀	★★	野坂岳		高島		
		鈴鹿	★★★	熊登ヶ峰	40	村田	貸切バス	
30	日							
31	月							

2月	曜	地域	グレード	行き先	定員	保	備考	チェック
1	火							
2	水							
3	木							
4	金	六甲	*	油コブシ		村田		
5	土	湖北	★★	山本山～隠ヶ岳	25	狩野	貸切バス	
		東濃	★★	屏風山	10	山田		
6	日	鈴鹿	★★★★★	黒尾山		岩野	マイカー	
7	月							
8	火							
9	水	洛北	*	広沢池～曇茶羅山		仲谷		
10	木							
11	金	丹波	★★	鹿倉山	25	村田	貸切バス	
12	土							
13	日	奈良	*	春日山～若草山		村田		
14	月							
15	火							
16	水	湖北	★★★★★	菅並～妙理山		檀上	マイカー可	
17	木							
18	金							
19	土	京都西山	★★	十方山～西山キャンプ場		狩野		
		伊勢	★★	矢頭山	6	中	マイカー可	
20	日	比良	★★★	蛇谷ヶ峰～置坂尾根		栗		
		鈴鹿	★★★★	霊仙山西南尾根		岩野	マイカー	
21	月							
22	火	京都西山	★★	番掛山～大枝山～大霧山		仲谷		
		海外香港	★★	香港トレイル(→4日間)	20	村田		
23	水							
24	木	西吉野	*	柚野山	25	西上	貸切バス	
25	金							
26	土	敦賀	★★	西方ヶ岳		高島		
27	日	紀北	★★	鏡石山～藤白峠	25	村田	貸切バス	
28	月							

- 冬期はアイゼンなどの滑り止めを持って参加ください。豪雪地はスノーシュー・ウカンが必須となります。
- 申し込みは必ずチェックし、重複しないようご注意ください。
- キャンセルする場合は、必ず申込先に連絡してください。各リーダーへの山行メンバーは直前(3日前)に届けています。
- 定員制での申込人数の確認など、下記のホームページで検索することができます。

山行例会 参加要領

●山行計画には、**会員外可**と特記してあるほかは**会員外の方**(会員の家族は除く)は参加できません。一人ずつ(夫婦は連名可)往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するように、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAX・メールでの申し込みはお断りします。

●「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなくなった場合はすぐ申し込み先に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛入りはお断りします。

●なお、例会参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)

・死亡・後遺障害保険	金額	1000万円
・入院保険金	日額	5000円
・通院保険金	日額	3000円

●保険の対象は集合から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所での事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所〒

氏名

会員番号

血液型

電話・FAX 番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届けを提出しますので、必ず実施日の7日前までに、申し込んでください。参加人数によっては事前にバス・タクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および血液型・生年月日など必ずご記入ください。
- ② 詳細の山行案内は、実施日の10日前頃に返信します。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コース状況等、何か変更になった場合に再連絡するのは大変です。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断ください。
- ④ 山行のグレードは、目安として次の5ランクに決めています。
 - (★) 初心者でも安全に歩ける(初級)コース(3〜4時間コース)
 - (★★) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける(一般)コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (★★★) かなり経験を要するコース。危険な所はないが、距離がやや長い(中級)コース(6〜7時間コース)
 - (★★★★) 距離は中級向きだが、危険な所があり、きつい登高・急坂が長く続く(やや健脚)コース(6〜7時間コース)
 - (★★★★★) 距離が長く、つらい急な登高、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードな(健脚)コース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください(係から連絡はしません)。降雨山行が嫌な方は、雨天決行・小雨決行の計画には申し込まれないようお願いいたします。

六甲
谷筋を登下りする
六甲最高峰

★★★★
10名

1月4日(火) 雨天中止 (コース変更あり)

●JR住吉駅8時20分

行程 住吉駅—水鼻谷—六甲最高峰—白石谷—有馬温泉(15時)

費用 交通費各自

地図 昭文社「六甲・摩耶」

係 ◎古賀慶一

申込 〒675-0112 加古川市平岡町山之山684-33 17A-403 古賀慶二まで

◆六甲山を越え有馬へくだる。冷えた身体を温泉で温めればなおさらグー。

丹波
行場巡りと温泉
行者山から湯の花温泉

★★

1月7日(金) 雨天中止 (雪決行)

●JR千代川駅8時40分

行程 千代川駅—松尾神社—菩薩岩—行者山—千光寺—瑞巖寺—湯の花温泉「烟河」(入浴・バス)亀岡駅(17時30分)

費用 交通費各自 入浴代600円

地図 2万5千Ⅱ亀岡

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

◆日だまりハイクを楽しむ。

行者山ルート図 (2万5千=亀岡)



紀北
熊野古道つうく紀伊路① 週末ハイク1-19
布施屋駅から海南駅

★★

1月8日(土) 雨天中止

●JR布施屋駅9時20分

行程 布施屋駅—川端王子—旧中筋家住宅—和佐王子—矢田峠—平緒王子—伊太郎曾神社—奈久智王子—松坂王子—汐見峠—松代王子—菩提坊王子—一の鳥居跡—海南駅(16時30分)

費用 交通費各自(青春18きっぷ利用可)

地図 2万5千Ⅱ和歌山・海南

係 ◎狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆矢田峠・汐見峠を越え、熊野の入口海南へ。

美濃
三角点を求めて
金華山

展望の山76

★★
10名

1月8日(土) 雨天中止 (9日に順延)

●JR西岐阜駅8時15分

行程 西岐阜駅(車)岩戸公園—四等点—御料局三角点2ヶ所—金華山(二等点)—お城の御料局三角点—岩戸公園(車)西岐阜駅

費用 約500円(車代)

地図 2万5千Ⅱ岐阜

係 ◎山田明男

申込 〒503-0535 海津市南濃町松山624の19 山田明男まで

◆新春の山始め、恒例のお楽しみ会がある。

会員外可

長良川と金華山 (植上俊雄)



鹿 展望の里山を歩く 錦鹿を歩く347
鈴鹿 松尾寺山・高取山・向山

1月9日(日) 小雨(雪)決行 **マイカー**

●国道307号道の駅「マーガレットステーション」8時30分

行程 道の駅(車)宇曾川ダム右岸広場―松尾寺山―高取山―向山―山比古峠―山比古地蔵―広場

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「御在所・靈仙・伊吹」

係 ●岩野 明 ○一芝義雄 ○後藤康幸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆宇曾川ダム北の三つの山を踏破する。

山 白銀の尾根を歩く 京都北山歩き143
京都北山 棧敷ヶ岳から天童山

 40名

1月10日(祝) 雨天中止(雪決行) **貸切バス**

●JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)岩屋不動―薬師峠―棧敷ヶ岳―城丹国境尾根―天童山―茶吞峠―山国(バス)京都駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社Ⅱ「京都北山」

係 ●村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

◆雪の北山を歩き、比良山などを遠望する。下山は竜ヶ坂を山国にくだる。

北 送り火の山3 ゆっくり歩こう15
洛 左大文字山から衣笠山
 *

1月12日(祝) 雨天中止

●金閣寺道バス停10時00分

行程 金閣寺道―左大文字山火床―身代り不動尊―衣笠山―塔ノ下町バス停(14時)

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「京都北山」

係 ●仲谷礼司 ○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで **会員外可**

◆送り火の山3回目は左大文字山。隣の衣笠山と合わせて計画した。ゆっくりペースで歩く。

南 日だまりワンデイハイイク
泉 高森山から四国山
 *
 25名

1月13日(祝) 雨天中止

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)和歌山市森林公園―秋の丘―高森山―展望広場―四国山―冬の丘―登山口(バス)橿原神宮前駅(17時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ加太

係 ●西上利和 ○下部正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆森林公園から登る。紀淡海峡・淡路島が絶景。

高森山(◎西上)



室生 大和富士へ
額井岳から戒場山
 **
 6名

1月15日(日) 雨天中止 **マイカー可**

●JR石山駅7時30分(マイカーは十八神社へ)

行程 石山駅(車)十八神社―額井岳―戒場峠―戒場山―戒長寺―東海自然歩道―十八神社(車)みはる温泉(入浴・車)石山駅

費用 交通費各自(車代ワリカン)

地図 2万5千Ⅱ初瀬

係 ●中 照行

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆山姿の美しい額井岳へ十八神社から登り、戒場山へ縦走する。

北紀
熊野古道ウォーク紀伊路② 週末ハイク120
海南駅から紀伊宮原駅
★★

1月15日(出) 雨天中止

●JR海南駅9時40分

行程 海南駅―葦下王子―藤白神社―有馬皇子墓
―筆捨松―塔下王子―橋本王子―所坂王子
―一壺王子―拝ノ峠―蕪坂塔下王子―爪書
地蔵―山口王子―紀伊宮原駅(17時)

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ海南・湯浅

係 ●狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで

◆藤白坂・拝ノ峠を越え、有田宮原へ。

狭
岩籠山インディアン平原
★★★★

1月16日(日) 雨天中止

●JR新定田駅9時50分(マイカー共)

行程 新定田駅(車)駄口―大岩―展望ビーク―
ガレ場鞍部―インディアン平原―(往路)
―駄口(車)新定田駅(16時30分)

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ駄口

係 ●村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 村田智俊まで

◆ワカン・アイゼンでも可。

北山
愛宕山シリーズ23
雪の地蔵山
火燧ハイク77
★★

1月18日(火) 雨天中止

●JR八木駅8時20分(8・24発バスに乘車)

行程 八木駅(バス)越畑口―芦見峠―地蔵山―
愛宕社務所―保津峡駅(16時)

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「京都北山」

係 ●仲谷礼司 ○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで

◆例年雪の多い奥愛宕の地蔵山へ登り、今年も雪
山を楽しむ。

鹿
美しい樹氷を見る
鈴 綿向山
鈴鹿を歩く348
★★★★

1月23日(日) 小雨(雪)決行

●蔵王ダム広場8時30分

行程 蔵王岳(車)熊野―林道―又三八ゲ―綿向
山―北峰―ブナの木平―熊野峠―滝山谷―
熊野

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「御在所・霊仙・伊吹」

係 ●岩野 明 ○一芝義雄 ○後藤康幸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで

◆恒例、真冬の綿向山登山。光り輝く今冬の樹氷
はどのだろうか? 楽しみです。

敦賀
展望360度の雪山
野坂岳
★★

1月29日(出) 雨天決行

●JR敦賀駅9時00分

行程 敦賀駅(車)いこいの森―北尾根―野坂岳
―通常ルート―いこいの森(車)敦賀駅

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ敦賀

係 ●高島伸浩

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで

◆北尾根は新ルート。山頂からは白山・日本海・
琵琶湖などが大パノラマで絶景。

樹氷の文三ハゲを登る (◎岩野)



鹿 能登ヶ峰

雪原の鹿の楽園を歩く

★★★
40名

1月29日(出) 雨天中止(雪決行)

貸切バス

●JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)鮎河―能登ヶ峰―鹿の楽園

―能登ヶ峰―黒滝(バス)京都駅(17時)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社Ⅱ「御在所・霊仙・伊吹」

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆能登ヶ峰から鹿の楽園をたどり、雪原歩きと雪上での昼食をゆっくり楽しむ。

六甲 油コブシ

芝生広場から大展望 全望里山ハイック36

★

2月4日(金) 雨天中止

●阪急六甲駅10時00分

行程 六甲駅(バス)六甲ケーブル下駅―鉄塔登

山口―芝生広場―油コブシ―寒天山道出合

―鉄塔分岐―青山散策路―六甲駅(15時)

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「六甲・摩耶」

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆自然林のなかをのんびりと登り、芝生広場から大パノラマを楽しむ、油コブシへ登る。

湖北 山本山から賤ヶ岳

雪のなだらかな尾根 週末ハイック121

★★
25名

2月5日(出) 雨天中止(雪決行)

貸切バス

●JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)山本神社―山本山―片山・

熊野分岐―坂戸港―西野分岐―P360・

4―山梨子分岐―P368―賤ヶ岳―余呉

湖荘(バス)京都駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千11木之本・竹生鳥

係 ◎狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆積雪を期待して湖北の里山を歩く。

濃 屏風山

一等三角点の山 展望の山77

★★
10名

2月5日(出) 雨天中止(6日に顺延)

●JR西岐阜駅8時15分

行程 西岐阜駅(車)登山口―百曲がり―屏風山

(往路)―登山口(車)JR勝川駅

費用 約1500円(車代)

地図 2万5千11瑞浪

係 ◎山田明男

申込 〒503-0535 海津市南濃町松山624

の19 山田明男まで

◆今年の「展望の山」は一等三角点の山を中心に登る。

鈴鹿 黒尾山

饑饉たる秘境の山 鈴鹿を歩く349

★★★★★

2月6日(日) 小雨(雪)決行

マイカー

●永源寺ダム佐目小谷出合広場8時30分

行程 出合広場―佐目小谷中河原―烏帽子岩尾根

―黒尾山―大滝神社―佐目小谷出合広場

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「御在所・霊仙・伊吹」

係 ◎岩野 明 ○一芝義雄 ○後藤康幸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆佐目小谷の中河原から烏帽子岩尾根に取り付き、黒尾山南東のピークに突き上げて真冬の黒尾山に登る。下山は大滝神社から。

能登ヶ峰・鹿の楽園 (岩野 明)



北洛
送り火の山4
ゆっくり歩行16

★

2月9日(水) 雨天中止

●嵐山大覚寺前バス停9時30分

行程 大覚寺―広沢池―後宇多天皇陵―長刀坂分

岐―葛蒲谷山―嵯峨天皇陵―鳥居形火床の

曼荼羅山―大覚寺(14時40分)

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「京都北山」

係 ◎仲谷礼司 ○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

会費外可

◆送り火の4回目は鳥居形。嵐山から展望できる
低山歩き。ゆっくりペースで歩く。

丹波
山頂で大バノラマを満喫
鹿倉山

★★
25名

2月11日(祝) 雨天中止

高切バス

●JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)深山林道深山橋―熊野神社

―鳥帽子岩―鹿倉山―東尾根―深山林道―

轟水―狼谷出合(バス)京都駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ市島

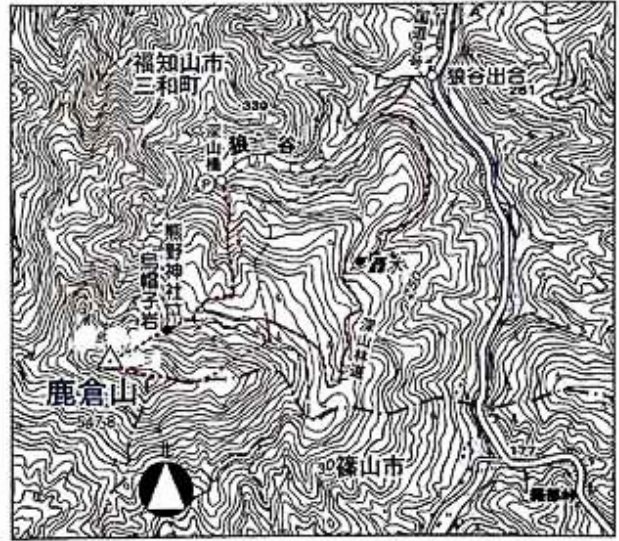
係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆新春登山で賑わう丹波の名山へ登る。

鹿倉山ルート図 (2万5千=市島)



奈良
副都心ウォーキングで原始林を歩く
春日山から若草山

★

2月13日(日) 雨天中止

●近鉄奈良駅9時30分

行程 奈良駅―春日大社―遊歩道―首切地藏―石

切峠―芳山―奥山ドライブウェイ―若草山

―春日山遊歩道―奈良公園―奈良駅(17時)

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ奈良・柳生

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆ロングウォークとなるが、平坦な地道が多いの
でゆっくり歩け、初級者も楽しめる。

湖北
スノーシューで登る雪国の山
菅並から妙理山

★★★★★

2月16日(水) 雨天中止

●JR余呉駅9時10分(マイカー共)

行程 余呉駅(車)菅並―東妙理山―妙理山―(往

路)―菅並(車)余呉駅(16時30分)

費用 交通費各自(保険対象外)

地図 2万5千Ⅱ中河内

係 ◎檀上俊雄 ○村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆スノーシューなら豪雪の山にも登ることができ
る。スノーシュー必携(ワカン・アイゼン不可)

京都西山
陽だまりを歩く
初歩ハイカー22
十方山から西山キャンプ場

★★

2月19日(出) 雨天中止

●JR山崎駅8時30分(阪急山崎駅から5分)

行程 山崎駅―十方山―小倉神社分岐―浄土谷―

柳谷―釈迦岳―立石―西山キャンプ場―長

岡天満宮(16時)―阪急・JR駅へ

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「北摂・京都西山」

係 ◎狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆京都西山のなだらかな尾根道をたどる。

伊勢
鋭峰と岩稜の名山
矢頭山

★★
6名

2月19日(出) 雨天中止

マイカー可

● JR石山駅7時30分(マイカーは中宮公園へ)
行程 石山駅(車)中宮公園→椿小屋→大日拝展
望台→矢頭山→矢頭峠→中宮公園(車)石
山駅(17時)

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ伊勢奥津・大河内

係 ◎中 照行

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで

◆低山ながら、岩尾根をいくつも越える伊勢の名峰。山頂からの展望もよい。周回コース。

比良
雪峰から雪稜をくだる
比良を歩く85
蛇谷ヶ峰から富坂尾根
★★★

2月20日(日) 雨天中止

● JR近江高島駅バスのりば9時00分

行程 近江高島駅(バス)畑→林道登山口→ボボ
フダ峠(須川峠)→滝谷ノ頭→蛇谷ヶ峰→
P817→造林公社看板富坂尾根分岐→P
475→蛇谷堰堤→富坂口(バス)近江高
島駅(16時30分)*ワカン必携

費用 2100円(京都駅から・保険対象外)

地図 2万5千Ⅱ比良山 昭文社Ⅱ「比良山系」

係 ◎秦 泰夫

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで

◆雪の伏感がよければ快適な富坂尾根が楽しめる。

蛇谷ヶ峰東面 (植上俊雄)



鈴鹿
樹氷とフクジュソウ
鈴鹿を歩く350
霊仙山西南尾根
★★★★

2月20日(日) 小雨(雪決行)

マイカー

● 河内線甲頭倉入口広場8時30分

行程 入口広場(車)今畑→落合→汗ふき峠→靈
仙山→最高峰→西南尾根→笹峠→今畑

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「御在所・霊仙・伊吹」

係 ◎岩野 明 ○一芝義雄 ○後藤康幸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで

◆恒例、真冬の霊仙山西南尾根を歩く。今年の西
南尾根の雪庇と今畑のフクジュソウはどうだろう
か? 楽しみである。

霊仙山西南尾根のフクジュソウ (植上俊雄)



京都西山
洛西の里山歩き
尖壁ハイク78
沓掛山・大枝山・大暑山
★★

2月22日(火) 雨天中止

● 阪急上桂駅8時00分

行程 上桂駅→唐櫃越→沓掛山→老ノ坂→首塚→
大枝山→大暑山→電波塔→大原野神社→洛
西高校バス停(16時)

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「北摂・京都西山」

係 ◎仲谷礼司 ○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで

◆唐櫃越の王ノ辻手前から西山の大枝山・大暑山
へ歩く。

吉野
フクジユソウと梅林
柚野山
★
25名

2月24日(休) 雨天中止

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)登山口→柚野山→榑ヶ山展望所→常源寺→県道出合(バス)津越福寿草の里・賀名生梅林(バス)温泉「きすみ館」(入浴・バス) 橿原神宮前駅(17時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ中戸

係 ◎西上和和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
◆山頂までは1時間30分。津越の里で花巡りする。

敦賀
眺望抜群の雪山
西方ヶ岳
★★

2月26日(出) 雨天決行

●JR敦賀駅9時00分

行程 敦賀駅(車)常呂神社→西方ヶ岳(往路)→常呂(車)敦賀駅

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ敦賀

係 ◎高島伸浩

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
◆新ハイ山行での西方ヶ岳の雪山登山は初めて。眼下に敦賀湾、若狭湾が広がる。

紀北
展望の山から藤白山脈へ
鏡石山から藤白峠
★★
25名

2月27日(日) 雨天中止

●近鉄上本町駅地上改札口8時10分

行程 上本町(バス)禅林寺→妙法滝→コッテの滝→熊尾寺山→鏡石山→大野城跡→藤白峠→藤白神社(バス) 難波駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ海南

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで
◆冬枯れの山頂から和歌浦、淡路島まで展望する。下山は藤白山脈を伝い。古道の藤白峠へくだる。

香港
香港トレイルを歩く
海外特別企画
シャープピークと鳳凰山4日間
★★
10~20名

2月22日(火)~25日(金) 雨天決行

●関西空港午前

行程 △22日▽関西空港(飛行機)香港空港(バス)市内観光(バス)ホテル(泊)
△23日▽ホテル(バス)西貢半島・西灣亭→シャープピーク→北潭凹(バス)ホテル(泊)

△24日▽ホテル(バス)ランタオ島・東涌(バス)登山口→ランタオピーク(鳳凰山)→寶蓮寺→天壇大仏→昂坪(ケーブル)東涌(バス)ホテル(泊)

△25日▽(午前中自由行動)ホテル(バス)香港空港(飛行機)関西空港(解散)

費用 約14万5000円

係 ◎村田智俊(現地ガイド付)

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで *1月20日まで

手配 アルパインツアーサービス(株)大阪支社

◆香港は香、観光と人気のふたつのピークへ。
◎集合時間等、詳細は申込者に送付します。

賀名生梅林 (◎西上)



ホンコンフラワー (◎村田)



香港の夜景 (◎村田)



卯年の山

生駒 巒峰



今年の干支は卯(兔)である。卯は十二支の四番で、昔の時刻では現在の午前6時頃を指す。方位は東である。

兔はオーストラリア・ニュージーランド・南アメリカ南部以外の全世界に分布していて、日本では北海道には雪兔。それ以外には野兔が棲んでいる。

肉は食用になり、皮は筆や敷物などにも利用され、繁殖力も旺盛で、人体に危害を加えることもなく、愛玩動物としても可愛がられている。

山名の由来は、兔が多く棲息しているとか、兔狩りをしたとか、山容が兔に似ているなどからきている以外に、卯は上にも通るので、山の頂の意味も持っているし、また方位のこともある。

兔の付くこれらの山々は、登山の対象としてはあまり知られていないが、私は一等三角点のある山は全部登頂しているし、また、南アルプス縦走時には最高点の兔岳を通過したはずである。

関西からは越前の赤兔山が、峠近くまで車が入れるので、比較的よく登られている。

山で兔を見かける機会は少ない。兔は深い山中ではなく野原にいるのかも知れない。私は、北海道の大島で何匹もの野兔が跳ね回っていたのが印象に残っている。

標高の高い順に並べてみると、下段のようになる。

名称	標高(m)	20万図	5万図
兔岳	2818	甲府	赤石岳
小兔岳	2738	甲府	赤石岳
兔岳	1926	日光	八海山
小兔岳	1858	日光	八海山
赤兔山	1629	金沢	越前勝山
兔藪	1449	甲府	甲府
卯月山	1102	飯田	時又
兔森	1078	秋田	角館
兔森山	1054	新庄	川尻
光兔山	966	村上	小国
兔タナイ	927	新潟	飯豊山
卯辰山	895	一関	千厩(室根山)
屹兔屋山	876	白河	川前
兔平	860	秋田	六郷
卯ノ鼻	774	大分	阿蘇山
兔ヶ倉山	698	新潟	大白岳
兔森	612	弘前	川原平(二ツ森)
卯子西山	424	八戸	陸中野田
於兔牛山	393	札幌	追分
烏兔ヶ森	351	一関	一関
烏兔山	325	一関	千厩
高烏兔山	314	一関	千厩
うさぎ山	310	室蘭	蛇田(三角山)
高烏兔山	288	一関	千厩
卯辰山	141	金沢	金沢
兔越山	82	金沢	福井

● 円空の世界に遊ぶ

冬の伊吹山

海老原 睦治



冠雪の伊吹山

伊吹山は、「円空仏」で有名な円空が若かりしころ修行した山である。当時、円空は太平寺中之坊に身を寄せ平等岩で修行をつんだ。その後、全国各地を歩きながら円空仏を残していった。

先週立ち寄った平等岩の眺めに誘われるように再び伊吹山に登ることにした。

登山口までやや遠いが、「ジョイ伊吹」に駐車する。このあたりに太平寺集落が昭和39年に集団移住している。太平寺は、現在の滋賀鉾山採石場の場所にあった。大平寺観音堂もその際に春照地区に移り、現在も十一面観音が安置されている。

駐車地から弥高集落に向かい、村外れのお宮さんを少し上がった所から尾根に取り付いた。この地点に「弥高百坊の物をむやみに持ち出してはならぬ」という内容の古い看板が立っている。今でも杣道として使われているようで歩きやすい溝道が続いている。しばらく登ると踏跡のない雪で真っ白な林道に出た。林道を熊

の足跡が横切っている。私の手袋よりも大きく足跡も新しい。ヤバいと思いつながら林道を登って行くと終点に着いた。

少し登った標高700mあたりから弥高百坊と呼ばれている弥高寺跡が続いている。弥高寺は太平寺と同じく伊吹山四ヶ寺のひとつで、昔は多くの修行僧が住んでいた。大門跡を過ぎると整地された建物跡が何段にも分かれていて、いちばん上の本坊跡まで続いている。雪で一面おおわれているので、その時はわからなかったが、きれいに整地された建物跡が残っているのは近年発掘調査されたためだということが後でわかった。

弥高山に近づくにつれ、少しやぶっぽくなってきた。整備されているのは弥高寺跡までらしい。弥高山からは、大きく横たわる伊吹山が青空に浮かんでいる。人に会うこともなく、とても静かな山旅だ。先週に引き続き二週連続冬の伊吹で晴天とはラッキーというほかない。ただ、先週に比べ雪はかなり少なく、これから登る中尾根は地肌が見えている場所もある。先週の雨で雪が解けてしまったようだ。

しばらく行くと、川戸谷側に張り

出す雪庇の尾根が見えてくる。雪庇は何ヶ所か雪崩を起こしており要注意だ。登っていくと予期せぬ出来事が。ズボットと落とし穴にはまる。雪解けのせいで雪が薄くなり下のやぶに落ちてしまう。かといって雪庇に乗るわけにもいかず苦勞する。この状態は、結局頂上まで続くことになる。地肌が見えた所からキックステップして雪面に抜け出す動作の繰り返しでこたえた。

気がつくくと平等岩が横に見える。八合目付近まで中尾根を登って来たようだ。もう少しと思いきや、頂上まで地肌が見えている。しかもやぶと雪の落とし穴である。ここまでは暑かったので手袋をせずに来たが、やぶと中途半端な雪でなかなか進まない。腹をくくって、手袋をはめてやぶ漕ぎの戦闘態勢だ。「どりゃー、どけどけ」と前進あるのみである。

何が円空の世界や、俗物そのものやなと思いつつやぶを突き抜けて頂上に到着した。ザックを下ろすと、後ろに付けていたピッケルのカバーが無くなっている。やぶに戻って探す気にもなれず、あきらめる。これからの時期、中尾根は歩きづらいかもしれない。

頂上では、少し休んだだけで平等



岩に向かう。先週はスノーシューで快適にくだれたが、今週は雪も少なくちよっと締まった雪質なのでアイゼンでくだることにする。頂上から少し下りたあたりからトラバースしていく。先週は、私ひとり立ち寄っただけのようだったが、きょうは数人が立ち寄ったみたいだ。先週は雪で屋根以外は見えていなかったが、きょうは祠全体が見える。平等岩に立つと真正面に霊仙山が雄大にかまえている。眼下には母なる淡海、琵琶湖が包み込むように横たわり、竹生島も見える。母を亡くし修行に入ったばかりの円空は、霊仙山と琵琶湖をどんな思いで眺めていたのだろうか。

円空仏には刻銘がないが、唯一北海道の洞爺湖の観音堂に安置してある観音像のみ刻銘が示されている。「江州伊吹山平等岩僧内 円空」。伊吹山平等岩僧というのは平等岩での禅行導を満願したものにだけに与えられる称号であり、誇り高いものであった。それゆえに北海道での第一作にあえて所属名を刻み残したのである。円空の平等岩に対する特別な思いが伝わってくる。

平等岩から登山道を使わずに大根畑に向かつて下りる。大根畑というのは現在の五合目から六合目あたりのことで、少し小ぶりで苦味のある伊吹大根が栽培されていたようだ。旧太平洋集落のあたりは、そば畑であつたという彦根藩の井伊家文書が残されている。ここからは登山道を下り、登山口より地道で春照集落を目指す。春照に入った所で季節外れの獅子舞に出くわす。鐘の音が軽トラの荷台から聞こえてくる。祭りかなと思いつつ「ジョイ伊吹」に到着。さて、太平洋観音堂を探さねば。

伊吹中学正門近くと書いてあるが見つからない。「伊吹山文化資料館」に立ち寄り、気になる資料を集めた後で場所を聞く。細い道に入った所にあるようだ。言われた通りに行ってみると、観音堂があつた。

玄関で写真を撮っていると、「何しとんのや」といい気分のおじさんが声をかけてきた。「円空仏のある観音堂の写真を撮っている」と言うので、「どこから来たんや」と問髪入れずに質問。「三重の津です」と答えた途端、腕をつかまれ観音堂の中へ。「津から円空さんに会いに来たんやて見せたつて」「きょうは年に一度の円空さんの祭りや、太平のもんは全部集まるとる」「酒でも飲んで」と、ありがたいお言葉であるが辞退させてもらった。「円空仏の写真を撮っていいですか」と聞くと「なんぼでも撮ってけ」

それにしてもこの十一面観音はで

円空仏十一面観音



かい。円空仏としては最大級の作品のひとつで1180センチある。円空が58歳の時に、人生の終焉を予感して太平寺に立ち寄り建立したものだ。渾身の力作と言っているだろう。それだけに、太平寺や平等岩に対する思いの深さが伝わってくる。太平寺が集団移住したのちも皆が年に一度集まり十一面観音に祈りをささげる姿を見て思わず嬉しくなつた。

帰り際、太平寺のあつた採石場からのびるベルトコンベアの終着点にあたるセメント工場が解体されているのを目にした。

参考タイム

- 「ジョイ伊吹」7・50―弥高山10・17―伊吹山12・31―51―平等岩13・09―21―「ジョイ伊吹」15・00

地形図

2万5千円関ヶ原



外鎌山

奈良

●万葉集の歌枕を訪ねて

外鎌山から栗原廃寺

とかまやま

おおばらはいし

木村 太郎

奈良の「ふるさと富士」外鎌山は、近鉄大和朝倉駅から忍阪(旧名忍坂)まで登山道がつながり、「朝倉富士」とも「忍阪富士」とも呼ばれる。

桜井市大字忍阪の地は、万葉集の鏡王女と額田王、姉妹の生まれ育った土地と想定されている。忍阪の地には、鏡王女墳墓や額田王氏族の額田部氏の祖先天津彦根命を祀る忍坂坐生根神社があり、万葉集の歌姫と忍阪の結びつきを想像させるからである。

鏡王女と額田王は、万葉集に姉妹で相聞歌を残している。鏡王女は天智天皇と藤原鎌足に愛され、額田王は大海人皇子(天武天皇)との間に子を生じたが後に天智妃になった。華麗なる万葉集姉妹の面影を訪ねて、新ハイの友人達と外鎌山へ出かけた。

大和朝倉駅から南東へ、朝倉台北橋を渡り朝倉台団地を抜け、桜井外鎌山配水池の登山口を目指した。往昔、旅人たちが大和国原を発って伊勢や吉野熊野方面へ向かう時、追分節発祥の泊瀬追分で転じて忍阪の山を眺めて歩いたという。伊勢参宮街道や東熊野街道へ向かうに、外鎌山は大和を離れる名残を惜しむ景色であったのだろう。

こもりくの泊瀬の山 青幡の忍坂
の山は走り出の宣しき山の出で立ちのくはしき山ぞ あたらしき山の荒れまく惜しも

(巻十三 333)

山々に囲まれた隠国の泊瀬の、青旗に似た青々とした忍阪の山は、走り出した時のような姿勢のよい山、立ち上がった時のような鮮明な山だと称賛されている。このところ忍阪の山が荒れていくのが惜しいと詠んでいる。山辺に貴人の奥津城があり、その山が荒れることを悲しんでいたのだろうか。

外鎌山配水池へ通じる車道を上り、通行止の標識をつけた鉄扉に外鎌山への道標を目にする。緑色に塗られたガスタンク前の高台に出て、大和三山と三輪山や巻向山など泊瀬の山々を見渡した。眺望を堪能した後、

金網沿いに進んで登山口に取り付いた。

外鎌山北麓は住宅開発が進み、中腹の登山口から一気に山上へ登るの、思いのほか急坂である。雑木林に包まれた道の落ち葉を踏みしめて登るが、途中で傾斜がゆるんで刈り込んだササ地が現れる。山腹を廻り込み登山口を別にした山道と合流し、再びの急坂を真向かいの山頂へ到達した。

外鎌山(292.5m)山頂の桜の古木に忍坂山の山名標もあり、三等三角点高間山の木標を別の樹木に付けている。三角点の石標に手のひらの体温を伝え、大和のふるさと富士を後にする。かつての外鎌城跡でもある山頂の南朝忠臣顕彰碑の裏に出て、忍阪への道標を確かめて下山道をとる。

雑木林の道をくだりだせば、好展望の眺めもなく、奥深い深山をたどる気分さえしてくる。落ち葉に親しんで里山の感触を楽しんで歩く。やがてササが地表を占める植林の小さい山道となり、山間に果物畑を開いた忍阪の耕作地に下りついた。

欽明天皇皇女であった大伴皇女墓に寄り道した後、額田王の姉君になる鏡王女の押坂内墓を通る。天智



天皇と結ばれながら、下賜されて藤原鎌足の正室となった鏡王女の墓である。土壇だけが残る寂しい墳墓だが、そのまわりに桜の古木が植えられ、季節が春になれば花に慰められるであろう。

外鎌山では曇っていたが、耕作地に薄日が差し始め、野鳥の鳴き声が聞こえてくる。谷間の細い道を歩いて行けば、せせらぎを聞き入るようになり、小川の流れて濡れて苔むした歌碑が建っており、万葉学者犬養孝筆になる鏡王女の歌が書かれている。秋山の木の下の隠り行く水の我こそ益さめ思はずよりは(巻二〜92)

鏡王女の歌の前段では、近江大津宮の天智天皇が詠んだ歌がある。天智は「あなたの家がいつも見られたらよいのに、大和の国の大島の嶺にあなたの家がありさえすればよいのに」と、鏡王女への愛を示した。妹が家も継ぎて見ましを大和なる大島の嶺に家もあらましを(巻二〜91)

天智の呼びかけに鏡王女が、「秋山の樹下をひそかに流れて行く水のように、わたしの方がより深く思っております。あなたが思いくださるよりも」と応えた歌である。風が冷たい谷の小道を抜けて、木

立に取り囲まれた舒明天皇押坂内陵に出る。舒明陵は外鎌山南麓に築かれているが、舒明天皇離宮があった場所はどのあたりなのだろう。万葉集に小倉(忍阪)の山を詠んでいるほど、舒明と忍阪の地は関わりが深い。

夕されば小倉の山に鳴く鹿は今夜は鳴かず寝ねにけらしも(巻八〜151)

万葉集に岡本天皇の御製歌とあり、飛鳥岡本宮を都にした舒明天皇の歌とされる。斉明天皇の都は後飛鳥岡本宮と伝えられ同じ宮地でも区別されている。舒明の父君は押坂彦人大兄皇子が名で、舒明の皇子時代の邸が忍阪にあつたと考えられている。「天皇、飛鳥岡の傍に遷りたまふ。是を岡本宮と謂ふ」と、『日本書紀』の舒明二年の条に記されている。舒明は飛鳥岡を宮都に定めたが、忍阪は父祖ゆかりの地ゆえに離宮が造営され、天皇として行幸した時に小倉の山の歌が詠まれたと想定されている。

舒明天皇は「万葉の父」という呼ばれ方をされている。天智や天武の皇子を生み、皇子をとりまく鏡王女や額田王の優れた歌人が後に現れている。山本健吉は「大和山河抄」の

著書に、万葉集の根幹部は「舒明の皇統の歌集といってもよい」と述べている。

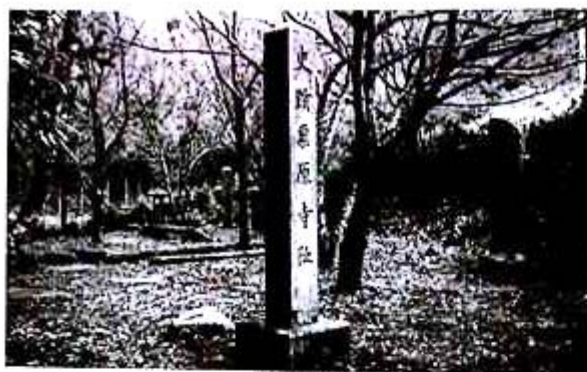
皇陵巡拝会が建てた「舒明天皇陵従是左一町」の石標があり、白壁が目立つ古い家並の道に出る。北方へ少して額田部氏族の先祖を祀る式内社忍坂坐生根神社があり、額田王との関わりを思いつつ参拝する。南方へ歩き直して高円山石位寺に廻る。白鳳期の重要文化財「薬師三尊像」を見たかったが、拝観は春秋期限定で希望は叶えられない。

保田典重郎は著書「山ノ辺の道」の中で、元々粟原寺所蔵の三尊石仏に触れて「額田王の念持仏」と言い定めている。その御仏の唇の部位に仄かな紅を残した温雅な顔が魅力的という、額田王の念持仏として評判の三尊石仏を拝見できないのが惜しまれた。

天智天皇から捨てられた鏡王女、今は天智天皇の愛の訪問を待つしかない額田王、姉妹が取り交わした相聞歌が伝えられている。

君待つと我が恋ひ居れば我がやどの簾動かし秋の風吹く

(額田王の歌・巻四〜488) 風をだに恋ふるはともし風をだに來むとし待たば何か嘆かむ



栗原寺跡

(鏡王女の歌・巻四〜489)
ひとり「君を待ち恋い慕つていても、家のすだれを動かすのは風だけなのです」と、額田王は姉君に歌を届けた。すると「風をでも待ち恋うているとは羨ましいこと、何を嘆くことがあるのでしょうか」と、鏡王女は額田王に慰めの歌を返している。持統天皇の御代まで寿命を全うした額田王は、忍阪から程近い栗原寺で晩年を過ごした。姉の鏡王女墓を守るために、栗原寺で余生を暮らしたのだろう。

石位寺でうどんを炊いて友人達と昼食をとり、体を温めてから近畿自然歩道を栗原へ向かう。

倉橋溜池堤と音羽山を眺めて歩き、下尾口の田圃脇に石造りの「忍坂伝承地」碑文を見つめる。神武天皇が長髓彦との戦いで、夜陰に乘じ山を下り来て、夜が明けるまで森かげの坂に忍び隠れていた伝承があり、忍阪地名由来をしのばせる石文である。

車が多いバス道を避けて、栗原川沿いの小道に入る。何かしらゆかしい白壁の家が並ぶ栗原の集落を登る。大宇陀へ通じる半坂峠越え近畿自然歩道と分かれ、古い「多武峯村大宇栗原」の地名を記した天満神社の神殿にたどり着いた。鎮守の森の奥方に、国指定「史蹟栗原寺跡」石碑を訪ね当てる。神武ゆかりの「男坂伝承地」半坂峠から移された十三重石塔、額田王万葉歌碑がある栗原寺跡は、金堂や三重塔の礎石を残し、静まり返っていた。

言い伝えによれば、栗原川の氾濫で一夜にして栗原寺は消滅したという。標高260mの高台に建つ寺院を廃寺と化するほどに、昔の栗原川は暴れ川であった。多武峯の談山神社が所蔵する国宝「栗原寺三重塔伏鉢」に、栗原寺と額田王とのつながりを裏付ける銘文が書かれてあり、

然歩道を栗原へ向かう。

注目に値する。

持統天皇の御代に、草壁皇太子追福のため仲臣朝臣大嶋の手で栗原寺の造営が始められた。大嶋の死後に遺志を引き継ぎ、比売朝臣額田が和銅八年に寺院の三重塔を完成させたという。三重塔伏鉢銘文に伝わる比売朝臣額田こそ、額田王の晩年の姿だという。

額田王について、天武紀に「天皇初め鏡王の女額田姫王を娶して、十市皇女を生ませり」の記事が載る。これが額田王に関しての唯一確かなる史書の証言である。だが栗原寺跡の一角に身を預けている時、比売朝臣額田こそ額田王に間違いないという、詩的直観が真実を言い当てている気がしてくる。

額田王が鏡王女墓の近くに居住することを望み、栗原寺で日夜贖罪の祈りを続けたことが容易に想像される。その人は榮華に生きた姿ではなく、石位寺の三尊像のように世を悟りきり、温雅なほほ笑みを浮かべていたに違いない。

(平成21年1月19日歩く)

王女押坂内墓(10分)舒明天皇押坂内陵(10分)忍坂坐生根神社(10分)石位寺(10分)下尾口バス停(50分)栗原寺跡(15分)栗原バス停(バス15分)近鉄桜井駅

コースタイム
近鉄大和朝倉駅(20分)登山口(20分)外鎌山(20分)忍阪耕作地(10分)鏡

地形図
2万5千1桜井・初瀬・古市場

編集人より
今号より山行活動を主体とした会報誌として編集しましたが、初めてのことで参加者からの写真・感想文の提供がわずかで、リーダーからの計画メッセージ(コースガイド・写真)も少なく私の思いとはほど遠い誌面となりました。

でも、本号をご覧になれば、多少は新ハイの仲間達が楽しく登山を親しんでいる様子が垣間見えるのではないだろうか。みんなでいろいろなスタイルのハイキングを楽しみ、苦勞して登った山の思い出が誌面に反映できるよう、本誌をご参考にされ、次号からの感想・写真の提供をよろしく願います。(村田)

● 三角点を訪ねて⑧
● 紀泉アルプスを歩く

雲山峰から俎石山

うんざんほう

まないたいしやま

磯部 純

お菊山以来、西上リーダーの山行例会へは2年振りであった。歩く山

は、大阪・和歌山府県境に横たわる和泉山脈の西半分に当たる紀泉アルプスと呼ばれる山域だ。鳥取池を取り巻く山々で、雲山峰・釜法ヶ岳・大福山・俎石山を巡る。どのガイドを見ても、雲山峰と俎石山は二つのルートに分かれていて、これ等の山を1日で歩く案内書はない。低山歩きとはいえ距離が長く、さすが「西上さんの例会」だと言わざるを得ない。

近鉄富田林駅8時50分の集合。時間は遅いが、私の住む宇治からだ、遅くとも6時半には家を出て、電車を三回も乗り換えなくてはならない。乗り換えに自信がなく、近鉄新田辺駅から乗ってきた彼女を見て、姿を

見失わないように後について走る。富田林駅へは8時35分に着いた。

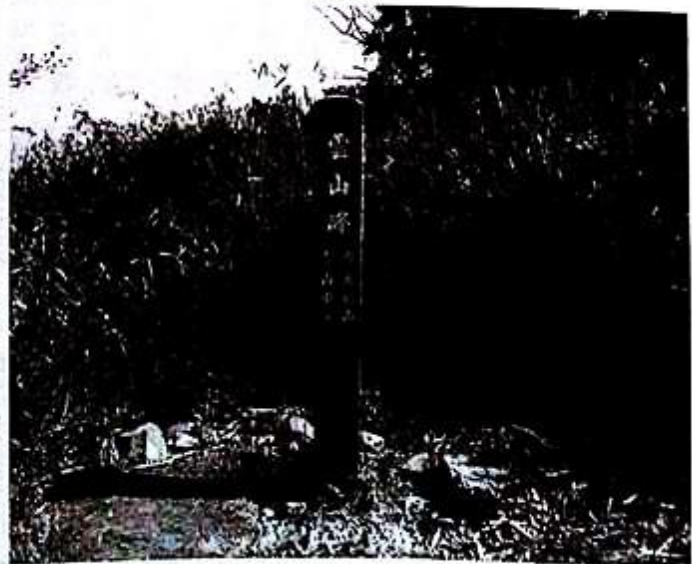
8時50分にバスで出発する。この日の参加者は17名で、名前を知っている方は、リーダー・サブを除けば3人だけ。いかに西上さんの例会に参加していないかがよくわかる。10時前、JR山中溪駅を通り過ぎた所から、右に入った広場でバスは停車する。ここが出发点である。

10時10分に出発。広場から人家の道を南へ歩き、右へ曲がった先で「銀の峰ハイキングコース」のアーケードをくぐり、阪和道をくぐると登山口。「葛城二八宿への道、第三経塚雲山峰」と書かれた標識が立っている。ここからこのルートでいちばん長く急な登りが始まる。谷に沿って斜面を切って登ってゆく道は

途中でターンし、尾根先端まで引き返すと尾根西斜面を登ってゆく。道はしっかりと刻まれていて、雑木林の斜面にはウラジロやコシダで敷き詰められている。道は予想以上に急ですぐに汗が出てくる。やつとゆるくなる。左手に小川状の谷が現れ、そこからひと登りすると、尾根にのった。正面にはニギニギしく道標が立っていて、右手へ30度も向かうと第一展望台。眼下には、大阪湾や関西空港が見えていた。

「銀の道ハイキングコース」は、ここから北へ向かい一巡して山中溪へくだるが、我々は尾根を南へ向かう。ここからの尾根の道を「紀泉アルプスコース」と呼んでいる。尾根道を15分も歩くと、道は方向を変えて西へくだる地点に着く。この左のピークに三角点があるが、リーダーがここを通過しそうだったので、「三角点がある」と声をかける。行ってみると、1分程で山頂に着いた。山頂広場は八畳位の広さだったが、まわりは林に遮られて展望は全くない。

雲山峰



広場の中央には三等三角点を立てている。標高3637mで、点名「滝畑」、標石は西向き。木には「四ノ谷山」と書かれた山名標識が下がっていた。

縦走路まで戻ると、前方に雲山峰の二つコブが遠くに霞んでいる。ここから長い長い尾根歩きが始まる。尾根の両側は雑木で展望は閉ざされるが、時折、切れ目から右手に大阪湾や泉南の街を見る。足元にはウラジロとコシダの群落が途切れることなく続いている。小さなアップタウ



ンを繰り返して急な斜面を登り、標高3291mを越えた岩ガラのピークに来る。パノラマ展望台から雲山峰までは中間地点である。南の展望が開け、雲山峰から東にのびる尾根、その間から和歌山平野も見ることができた。ここに来て、低山ながらアルプスと名が付く尾根を歩いているのだと、初めて実感することができた。

再び尾根道を西南へ向かう。目の前には同じような林の光景が現れ、気が滅入ってきそう。それでも、時折、林の間から大きくなってくる雲山峰の姿を見ることに、腹の空いているのも忘れさせてくれる。送電線をくぐり、急坂をフウフウ登り、方向を左に変え、やっと頂上に着いたと思ったら、雲山峰はその先のピーク。もう少しで食事にありつけると力を振り絞り、最後の急坂を登り切ると雲山峰山頂で、12時25分の到着だった。山頂に八大竜王が祀られているからか、「雨ヶ森」とも呼ばれている。

山頂広場は、ササに囲まれた10四方程の広さで、広場の北には「雲山峰 左山中溪 右大福山」と彫られた真新しい石柱が立っている。南の端には、雨の神である八大竜王を祀ったと思われる小祠が建てられているが、経塚跡はどこなのか確認できなかった。まわりには木がなく開けていて、東にもうひとつの広場があったが展望はあまりよくない。三角点は、広場の中央で草に隠れて立っている。標高は490・0m。点名は「天下森」、三等

三角点である。標石は南南東向きで、南から20度東へ振っていた。この山頂で記録を取ったり、写真撮ったりしているうちに、気がつくと、メンバーの姿が山頂から消えていた。広場で食事中の3人に「皆はどこへ向かいましたか？」と聞くと、「南の道をくだって行きまして」との返事。慌てて小走りした後を追うが、なかなか皆の姿は見えない。たしか昼食予定時間は12時30分のはずだが、とうに過ぎていく。10分も道をくだったが、皆の姿は全く見えず、「こんな遅くまでくだるはずがない」「きつと山頂付近の隠れた展望のよい穴場で昼食しているのだらう」と、勝手に解釈すると、「皆に会えなかつたら予定の道を歩けばよい」と聞き直って、道の途中に坐り込み、昼食をとることにした。

ザックを下ろし、カップラーメンにお湯を注ぐと、ちょうどその時に前方から登ってきた単独の男性。念のためと思い、「20人程の団体に会いませんでしたか？」と尋ねると、「向こうの広場におりましたよ」との返事。

それではここで食事する理由がなく、荷物をまとめ、湯の入ったカップラーメン片手に南へ向かう。井関峠へくだる分岐に出て、さらに南へ向かうと、広い「青少年の森広場」に皆がいた。中には昼食を終えた人もいる様子だったが、幸いにして、朝に招待を受けていた新田辺の彼女のウドン鍋は続いていて、おこぼれにあずかることができた。ホッとひと息ついたところで、「何で遅れたの？」「どこを迷っていたの？」の質問攻めに、答えるのに「フウ、フウ」。後で聞くと、私が駆け足で後を追っても追いつかなかつたはずで、リーダーは、予定の12時30分を過ぎていたので、雲山峰から走るような早さで広場へ駆け下りたのだとか。

食べる物を食べ、飲む物を飲んで落ち着いたところであったりを見渡すと、この場所は最高の展望台。広場は広すぎるほど広く、眼下に紀ノ川と和歌山市街を見下ろすことができ。最後に彼女の目薬入りのコピーで締めくくり、13時30分に出発となった。

分岐まで戻って井関峠への道を開く。急勾配の所もあったが、整備された尾根道で、道の両側の木には樹名札が下がっている。25分もくだると、井関峠へ下り立った。

井関峠は、泉州から紀州へ越える峠である。また、友ヶ島から大和川



割れた俎石山一等三角点

の亀瀬岩に至る葛城山系にある葛城修験に関わる峠で、葛城二八越のひとつでもあった。葛城修験では、葛城山系から二八ヶ所を選び、そこに法華經二八品の写経を埋納して経塚を立て、修験者の行場や遙拜所と、その付近に祈禱所、宿所を設けたと葛城修験を記した葛城雜記に書いてあるというが、二八越は、これ等の行所へ至る道として、利用されたといわれている。見ると、峠の北側まで車道がつくられていて、東屋まで建てられているが、その昔は細々とした道だったに違いない。峠の南側には文化十二年（1815年）建立の

地藏尊が、昔のままに祀られているというが、我々は南へ行かなかつたので、地藏尊は見えない。

峠から山腹の道を北へ向かう。地形図の破線は、直線的に尾根に登っているの、この道は、最近につくられた道なのであろう。鞍部に出て方向を北に変え、ひと登りすると道分岐。左は捲道なので、右の尾根道を登ると籤法ヶ岳東峰。山頂の北方が開け、眼下に鳥取池が見下ろせた。南の木の根元には、朽ちかけた「籤法ヶ岳」と書かれた山名標識が下がって、その上に真新しい山名標識も下がっている。山頂から急坂をくだって捲道に出て尾根道を進むとすぐ道分岐。今度は左の尾根道を登ると籤法ヶ岳西峰に着く。この山頂には立派な山名標識が立っていて、ベンチまで設置されている。これを見たと、籤法ヶ岳は双耳峰で、西峰が主峰なのだろう。

尾根を北へ向かい、急尾根を登ると送電線鉄塔。なお尾根を登ってその先の四辻を直進すると、大福山山頂だった。

細長い平坦な山頂広場には、元禄九年（1696年）建立の「大福山」と刻まれた大きな石碑が立っている。その左には「葛城第七福尊童子鎮座

妙經譬喻第三山」と彫られた標石があり、弁財天窟と聖観世音菩薩の祠も建っている。この山は、役ノ小角の葛城二八品行場の第三番目に当たっており、現在でも訪れる人が多くと聞く。山頂は、西側の雑木が信者の手で切り払われて展望がすばらしく、遠くに紀泉平野が霞んでいた。

四辻まで戻り、道を北へ進む。いったんくだって細尾根を通り、ゆるく登ると俎石山山頂。西上リーダリーに、「予定通り、ちょうど15時に着きましたね」と言うと、リーダーはニコリ。山頂は広く平坦で、まわりの木々も疎ら。西方には紀泉の飯盛山が間近に見えていた。山名は変わっているが、由来は不明だという。おそらく、この連山に巨岩が多く、それが俎に似ていたことから名付けられたのではないかと推測されている。

三角点は広場の中央に、四つの保護石に囲まれて埋められている。標高420・0m、点名も「俎石山」。大阪府には五座の一等三角点が設置されているが、唯一つの一等三角点本点である。標石は南向きで、北辺がV字状に鋭く削られて、痛々しい。山頂で集合写真を撮り、下山にかかる。北展望台を経て北へくだり、

雑木の尾根道を東へ向かうと、尾根先端で道分岐。予定の残り時間は1時間もなく、鳥取池へ向かう右の道を選んだ。思っていたより急だったが、整備されていて、25分で谷へ下り、すぐに井関峠へ向かう道に出た。

後は鳥取池の西の道を歩くだけ。鳥取ダム畔を歩き、ダム脇の道に出ると、先頭を行くリーダーの姿は見えない。ダム下の広場への16時到着を守ろうと、ひとりで走ってくだったようだ。着替えの後、広場で待っていたバスに乗り、富田林駅へと向かった。

低山歩きではあったが、アップダウンも多く、所どころで、アルプス的気分を味わうことができた。

（平成21年2月12日歩く）

コースタイム

山中溪広場（35分）第一パノラマ台（15分）四ノ谷山（1時間20分）雲山峠（15分）青少年の森展望台（30分）井関峠（15分）籤法ヶ岳東峰（15分）大福山（20分）俎石山（35分）鳥取池南井関峠道（25分）鳥取池ダム下広場

地形図

2万5千Ⅱ岩出・淡輪

山の地名を歩く⑧

稲尾岳

西尾 寿一

九州最南端の肝属部錦江町、もつと平易に言えば大隅半島の最南端、太平洋の荒波に激しく浸食され、削りとられつつある稲尾岳（930m）である。

少し昔まで船からしか望めなかった山だが、現在もなお接近するのは容易でない。

稲尾岳を最初に見たのは沖繩から帰りの飛行機からだった。ガスに覆われて山容全体は見せてくれないが、海から急角度に迫り上がる岩混りの緑の壁が大隅半島の南西一帯に広がっている。

これは、おそらく屋久島とほとんど同じ花崗岩質で沢から攻略できる案外おもしろい山ではないか、とその時思った。何か秘密の要素の強い今どき珍しい存在の山に感じられ、宿題のひとつに加えていた。

稲尾岳の名も何か隠されているような思いがしてならない。派手な名でなく昔風の穏やかなかに感じている内容を秘めている。「稲」の植物的イメージとは反対に、稲の字をもつ山岳はみな鋭い峰をもっている。稲村・稲穂などしかりである。

地形図を見ると北から南下する穏やかな花崗岩の台地が一気に海に落下する所、コンターの幅が

著しく込んでいる。これは只者でない地形である。

早速、手持ちの各種資料をあさる。登山道が西の打詰と北の盤山からあるが、これは山頂に鎮座する「稲尾神社」の登拝路である。地元ではこの登拝路を使っているらしいが、登拝者の減少で道も荒廃しているようだ。

大隅の山は南面が激しく浸食されコンターが密集しており、沢筋に期待がもてると以前から考えていたが現実味をおびてきた。これは行ける。とみて、早速友人の八代市に住むY氏に連絡すると、「未登らしい幾本かの沢を登りましょう」と同意してくれた。

1990年1月、正月返上でひとり八代へ向かう。Y氏宅で1泊し作戦を練り、翌日、軽の四輪駆動車で鹿児島から内ノ浦へ向かった。

さて、山名の「稲尾」であるが、これが難題であった。平凡にみえて奥の深さを感じる。

『新日本山岳誌』では、「山名は山頂の神社名による」と逃げていく。愛宕山などの場合、各地方へ勧請されたとき、神社が先で山名が後になるが、稲尾岳などの独自性の強い山では完全に山の性格から全てが始まる。

『古代地名語源辞典』では、イナは砂で自然堤防であるとし、「いなほ」（稲直）でも同様で丘陵地の高い所。とするが納得できそうにない。どうやら日本の古語の扱いでは地方性、または局地性の言葉は取り扱わないようである。

柳田国男の著作集のなかにはさすがに数点の「イナオ」が出てくる。イナオ崎・イナオ峠・稲

岡君とあるが、片仮名の地名が有効であった。

ではなぜ稲尾でなく、イナオと片仮名で通すのかの問題となる。以前小生は片仮名を使用するのは、未確定の場合、つまり一種の仮名とする場合に使われるのである。したがって地名などを採集して確定しない間、口語の発音に忠実でありたいがためである。

イナオの場合、全国に類似の名があるものの、本来は（本家的には）アイヌ語であった。もつと正確に言えば、縄文語と言ったほうが正しい。なぜなら、大陸や半島から移住者が列島に新しい技術をもつて渡来し支配する以前には、この列島には縄文系の雑多な民族が居たからで、その中にアイヌも有力な存在だったから、その言葉が残ったのであり、今日でも列島の隅の半島や島などに意味不明の難解な言葉があるのは案外、今日のアイヌ語で解ける場合がある。

北方に住むアイヌ族は比較的純粋なアイヌ語を残したが、列島に残り和人（？）と混血して終わった大多数派は全てを忘却し、自からの歴史すら知ることもないのである。

柳田の著作においては、あくまで研究対象を和人側においているが、すでに多くのイナオ（的）祭や儀礼は失なわれている。だからイナオはあくまでイナオであって、それは和人の「祭の木」（幣木）と同一であると指摘するにとどまる。しかし、その幣木の意味は多岐にわたり相当複雑なものであることを語っている。

例えば「イナオ」は「矢立」と同義で、特定の土地に棒（祭木）を突き立てる行為は、そこに自

然の神の存在を期待してのことで、その棒が根付いて大杉になったり、岬や崖の突出部を通過する場合、必ず祭木を立て折ることをしなれば、その崖が崩れて船が押しつぶされるとか難破したりすると言われる。

その他、自然の奇抜な景観のなかに人間に好意と反感情とが同居する神の感情があり、それにしたがうのが通行を無事にする知恵であるとされるのである。

また、蝦夷地のことにもふれた部分がある。当地にはイナオすなわち「稲穂峠」「イナホ峠」「矢越峠」があるのは本土の「矢立」の義と同様のことでありとされる。「各地にあるイナホ峠も亦一種の矢立に他ならぬ」とあるのがそれで、木古内から松山上ノ国に至る峠も別名稲穂峠であり、岩内と磯谷のシリベツとの分水嶺もルベシベ峠または稲穂峠と言ふ。

安政四年の松浦氏紀行にも「余も一柄を建てて下る」とあり、蝦夷地探索中の人物でさえ、アイヌの習慣に合わせているのがおもしろい。(イナオはイナホと同義)

柳田記述はさらに「イナホは(中略)アイヌの中の御幣である。アイヌも辺境の山を越える際には之を立てて行途の平安を祈ったのである。猶稲穂峠と云ふ海角は渡島茅部郡落部村(現乙部)後志岩内郡岩内町の西北海岸、同国奥尻島の北東端等にある。」

山なら峠、海なら岩礁や立壁などの障害のある場所などにイナオまたはイナホの御幣を祭祀したのであり、これは民族の違いに関係なく共有する

ものだった。

奥尻島のイナホは岬の先端にあつて人が近づかない秘境である。津波で付近の住民が大勢犠牲になつたことで知られるが、現在も鬼気せまる雰囲気の残る所で、島民も近づかない。

小生は当地にテント泊したことがあるが、一晚中強風におおられ寝られなかつた記憶がある。昔から、こんな自然の力の集中する場所に荒ぶる神が居ると考えたのであつた。小生も身をもってそれを感ぜさせられた。

イナオまたはイナホを和人は「稲穂」と漢字化したがる、むしろ植物の稲とは何の関係もない。荒ぶる自然の脅威に対し懐柔するかにみえる稲穂の名は、和人の希望や期待が表明されているのであろう。

「北海道の地名」(山田修三)では「イナウシレットウ」があり、これが決定的である。

浜益と増毛の境界の岬がイナウ・シレットウで木幣が立つ岬である。「アイヌ時代には海に突出した岬にイナウ(けずりかけ)を立て、ヌサ(祭棚)をつくつて海神に海の幸を祈つた」とあり、その地は各所に無数にあつた。また「日本のアイヌ語地名」(大友幸男)では「イナウ・サン」は「幣の壇」で、山や岬などに設けられた共同の祭壇」とある。以上のようにみえてくると、このイナウサンは「稲尾岳」と全く同じものとなる。アイヌの儀礼と同一とすることに反対する人もいるかも知れないが、先にも述べたように、それは偏見にすぎないのである。

地形図を詳しく見れば、稲尾岳の位置は陸路も

海上の交通とも容易ならざる場所なのである。人の住まないまさに辺境には、これを懐柔しなければならぬ神が居たのであつた。山頂の小さな祠はまさにイナオの場所であつたと確信したのである。

Y氏と大隅の多くの山に登り、国見岳の花崗岩の美しい沢も幾本か廻行し、いよいよ稲尾岳の直登ルートとして境谷(正にイナウの境界である)を廻行する前夜に熊本から若い助人力(たすけ)がやってきて粗末な宴を聞く。この付近には藩政時代の幕末には薩英戦争などにもない外国からの防衛にせまられ藩士を強制的に家族と共に移住させ、自給自足の厳しい生活に押し込められた名残の極めて小規模な村々が点在している。

断崖の下はすぐ海なのに港はなく通路さえない。時々釣人が岩場を登降する程度である。

村に平地なく傾斜した猫額の畑にエンドウ豆の栽培をしていたのも老人ばかりで、仏より神像を拜むのである。

老人以外は鹿兒島か近くの小都市へ出て生活し、週末に村に帰ってくるようだが、老人の死と共に確実に村は消滅するのだが、それもごく近いうちのことだろう。

今のうちに民俗学的な調査をしておかないと、永久にこんな特徴的な村の存在も忘却されてしまふことがおしまれる。

境谷は断崖の橋からくだるが、滝場になつていて海までにゴルジュがあるようだ。橋から上部はしばらく平凡であるが次第に岩が発達する。花崗

岩の赤味をおびた岩質はよく磨かれており、フェルト製の靴でも滑りそうだ。

谷全体がそんな岩質で覆われ谷芯は長大なナメが続いている。側壁には可憐なピンクの花が一輪咲いている。

いくつかの滝を登り500m程進むと谷全体に大量の土砂が覆ってくる。上部の崩落によるものとみられるが、土砂の下には滝場があったようだが、やがて台風などにより土砂が洗い流されるときがくるまで確認することはできない。

二俣となり、右俣は赤茶色の滝場で水量少なく左が本流だ。ザイルを出し20mばかりの滝の左岸を登る。滝の上部は急峻となり、ルンゼ状滝場があるが、南方系の見慣れない植物群が谷を埋めてくる。この山は亜熱帯に属することが現実味をおびてくる。

谷はさらに急角度に迫り上がってくる。やがて傾斜もゆるくなり、尾根に出て少しのやぶ漕ぎで祭壇の前に出た。これが稲尾神社の祠である。思ったより規模の小さいものであった。稲尾岳を北

方から枯木岳と呼ぶらしいが、おそらく少し離れた北方にある三角点のあたりのことと思う。祠はあくまで海に面して建っていて北方の農業者からは別の信仰があったのではないかと思われる。

祠からやぶ漕ぎして東の尾根をくだろうとしたが、猛烈極まる南方系の密敷と午後の名物のガスに覆われてきたので根性もくじけ、西尾根の登拝道を打詰へくだった。

打詰から出発点へ戻るのもちよつとしたアルパイトを要した。稲尾岳は北方から楽に登れるが、沢筋はいずれも急峻すぎて浸食と崩落を繰り返す荒ぶる神の山であった。

なお「イナウ」についてはいくつかの文献をみると神社の本幣と同じもので、日本列島全域の道筋にあった普遍的なものだったのが、次第に忘れられて神官が使う用具の一部にしか残らなくなつたもので、東北の「オシラサマ」はイナウそのものと言える。また、「年神」などもイナウである。イナウは、一本の棒の一部をけずり一輪の花房のようにしたもので、材料の木は榎である。榎は

聖木で「榎峠」などの名称には注意がいる。完成したイナウに装飾をほどこしたうえで、棒の先をらせして特定の土地に差し込んで折撈するもので、その土地は悪霊とか何か禍をもたらす神の居場所であるらしい。

同じ場所でも何度も事故が起きるとか、気分が悪くなる場所とか、風・雪などあらゆる自然の災害に対しても有効であるらしいので現実これを信じている人もいるようだ。

自然の脅威は現在も実在するので一概に笑いとばすことは憚られる。道祖神、矢立、そしてイナウの神の存在は登山をする人間としては無関心ではられない。

新刊

飛驒の山

— 研究と案内 —

飛驒山岳会 編著 A5判 三三八頁 二六二五円

飛驒百山の案内に、岩場登攀・沢登りも紹介！

山行案内に、笠ヶ岳・錫杖岳の岩場登攀・御嶽両面の沢登り・乗鞍岳と白山のスキー登山の記録も紹介。最近の登山道状況や交通アクセスなど、便利な情報も掲載。

西国三十三所道中案内地図

(上)(下)二冊本 森沢義信 著 B5判 各二五二〇円
いつでもどこでも日帰りで身近な札所から！

【姉妹編】
西国三十三所道中の今と昔

(上)(下) 森沢義信 著 A5判 各三三〇円

ナカニシヤ出版

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 〒606-8161
www.nakanishiya.co.jp/ 郵便税込

新ハイ関西 116号

標高△△ 16mの山

大滝山	(2616m)	北アルプス
黒壁	(1316m)	奥美濃
大白森	(1216m)	奥羽山脈
鳶山	(2616m)	北アルプス

大滝山

山小屋に泊まるよりもテント泊を好む人にお薦めの場所が、大滝山の北峰にあるテント場だ。私がテント泊した8月上旬でさえ他のパーティーは誰もいなく、槍・穂高連峰の豪華な眺めをひとり満喫することができた。

テント場を管理する大滝小屋は少し離れているため、発電の音なども聞こえず、とても静かだった。しかしその至福のひとつときに浸るまで、ふたつの試練をくぐり抜けねばならなかった。

徳本峠でテント泊したあと、大滝山へ向かっていた道のことである。行く手に猿の群れがいる気配がした。すぐさま左にも右にも行く手の足元

に総勢10頭以上の猿の視線があった。どうしたものか? と、一度20分ほど引き返して思索した。常に山行中に付けているザツクの肩ベルトのホイッスルを吹いてみてはと思い、おもしろい吹いてみると、前方の木

がいつせいにざわめいて、枝の激しく擦れ合う音、そして木どうしがカンとぶつかる音が森のなかに響き渡った。猿たちがそれぞれの木の上に登りつめたのだろう。そしてピタッと張りつめた静寂の気配に変わった。

私はホイッスルを力まかせに吹きながら早足で通過した。たぶん猿たちは上から私を注視しているのだから。その下をひとり歩くのだから、かなり緊張した。ストックを強く握りしめ、立回りのイメージを心に描

きながらも、気が気ではなかった。その後は樹林帯の静かな道が続き、人には全く出会うことなく樹林が途切れて大滝山の山頂に出た。いつの間にか空は暗くなり、急激に天気が崩れそうななか、小屋でテント泊の手続きをしてテント場がある北峰に向かった。

設営の最中に、横からあるいは下方から雷が鳴り始め、張り終わって中に入った頃には大粒の雨が降りだした。しばらくの間、雷は遠ざかることなく青白い光が何度もテントを射抜いた。体は濡れていないからテントの中で臥せっていれば問題ないと気持ち落ち着かせようとするが、やはりかなりの恐怖だった。

夕立が止んで美しく晴れ上がると、槍・穂高連峰が神々しい姿で現れた。(平成17年8月7日歩)

コースタイム

徳本峠(6時間30分)大滝山テント場

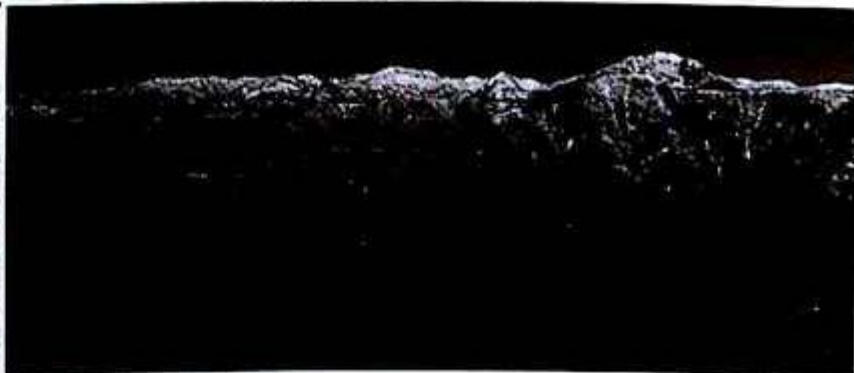
地図

昭文社「槍ヶ岳・穂高岳」

黒壁(高丸)

奥美濃の奥深い山々の中で、頭ひとつ抜きん出ている山が黒壁だ。名の知られている三周ヶ岳や蕎麦粒山、

天狗岳より奥美濃の山々(右が黒壁)



冠山などがすべて標高1200m台であるのに対し、黒壁だけが1300mを超えているのだ。そんな黒壁にせひとも登ってみたいという気持ちが強くなり、残雪期のゴールデンウィークにねらいを定め、岩井さんと目指した。

夜叉ヶ池への登山道は、まだ歩いていない岐阜県側から登った。坂内



夜叉ヶ池上の登山道より黒壁

川沿いの林道を車で最奥まで進みかけたが、大樽尾谷との分岐より前で雪崩による雪の堆積に阻まれた。そこを越えればまた乾いた林道が延々と続いた。

林道終点から1時間程歩いた地点でも雪溪の斜面を横切る箇所があり、アイゼンを持って来なかった人達が諦めて弁当を広げていたり進退を相談したりしていた。

夜叉ヶ池に着くと、福井県側からは簡単に登れたらしく、子供の声までして拍子抜けしたが、そこそこに咲く花々の美しさに心がなごんだ。

夜叉ヶ池近くの草地にテントを張

って三周ヶ岳へのジャンクションピークから黒壁を往復した。雪がなくなっていてやぶ漕ぎを強いられる箇所もあったが、おおむね雪の上をぬいながら歩くことができた。黒壁の山頂は感慨一入だった。

(平成6年5月3日歩く)

コースタイム

池ノ又谷林道途中(1時間)林道終点登山口(2時間)夜叉ヶ池(往復5時間)黒壁

地形図

2万5千Ⅱ美濃川上・広野

大白森

秋田駒ヶ岳から乳頭山へ縦走したあと、その北の田代平湿原より大白森を往復した。大空と草原に分割された大胆かつ単純な構成の景色のなかに一本の木道が草原を突き抜けて

地平線に消えている。大白森の山頂一帯に広がる草原は、地塘がなくて少し物足りない湿原ではあったが、景色を半分は大空と分かつ湿原の広がりを目を見張った。

(平成13年8月6日歩く)

コースタイム

田代平(5時間)大白森(5時間)田代平

昭文社「八幡平」

鳶山

立山の室堂までバスで体を上げてもらい、展望のいい尾根だけを楽しんで歩く五色ヶ原泊まりの往復コースに山頂到着の目標を加えたいなら、ちよと手頃な山が鳶山だ。鳶山からは薬師岳が近く大きく望まれ、まさに展望の山頂だ。

私は鳶山を越えて太郎兵衛平へ縦走したが、再び行くとしたらもっと花の多い夏の初めに、別天地の五色ヶ原にテントを張って、室堂からの往復コースでのんびり過ごしたいなあと思っている。

(平成15年7月31日歩く)

コースタイム

室堂(5時間)五色ヶ原(1時間)鳶山

地図

昭文社「剣・立山」

近江の山 花暦 | 新春

山本 寛人

新春に咲く花

山はまだ、冬。雪が降り山中には花の姿はない。びわ湖畔には
ナメタの花が一面咲いていて比良の自園に咲える。湖北の真山寺
出陣にはツギノトウが姿を見せ始める。雪があつてもツギノトウは
どの木の花より一足早く咲きます。同じようにネコヤナギも花を
持つ。



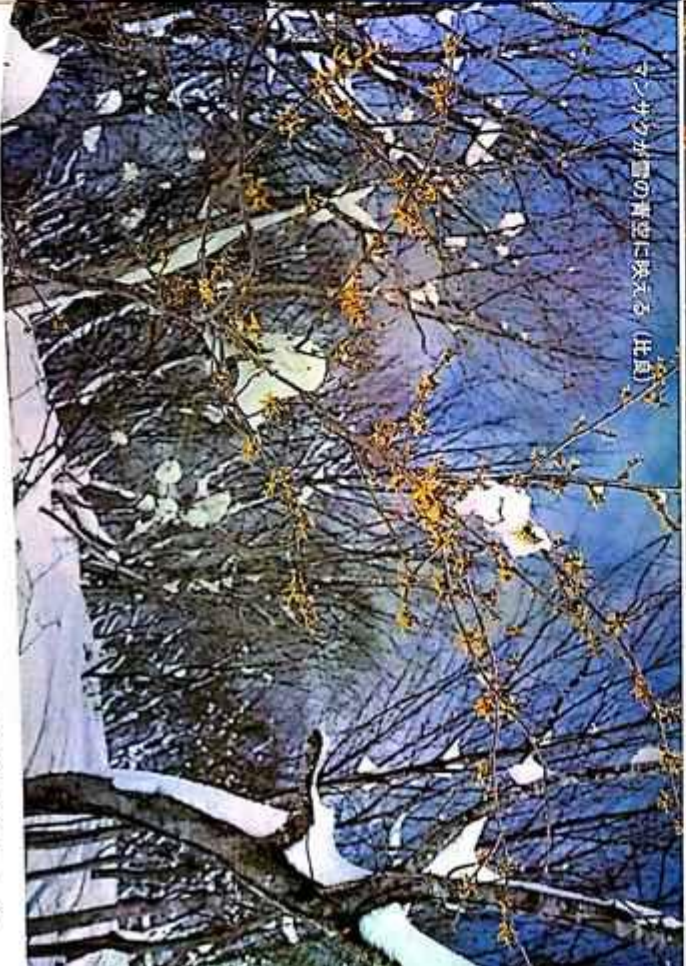
田んぼの斜面にツギノトウが咲く (横山岳山園)



ナメタ畑に新雪の比良山がぼほしい (守山市湖畔)



ネコヤナギは春の使者 (比良)



ツギノトウが雪の青空に咲える (比良)

● 奥深い台高山

霧降山から池木屋山
きりふり いけごや

大西 脩郎

数日前、師匠「伊賀遊歩人」さんからメールが届いた。台高山の沢水には「ハナヒル」がいるかも知れないので飲んではいけない。との呼びかけである。「成虫するまで人の体から離れない」といかにも怖い話である。沢水を飲めないとなると、どれだけ水を持っていけばよいのか全く検討がつかない。奥深い台高山である。しかも登路は未知の山で実力も試される。

池木屋山といえは毎年のように「遭難した、滑落死した」との新聞記事を見る。宮ノ谷は、死者の亡霊がさ迷う怖い山というイメージがつきまとう。今までにいったい何人くらい死んでいるのだろうか。行政側は、問題が大きくなることで入山禁止等の措置をしなければならな

いので公表を控えている。登山口には、松阪市の「滑落死亡事故多発」と書かれた看板が立っている。ここは、複数で入山するのが常道なのだが、今回は単独である。池木屋山へは過去、ピストンで二度登ったことがあるが、遠い昔の話で記憶は定かでない。絶対に無理をせず、本道をゆつくり歩こうと決めていた。

ルートは、霧降山登山口から△756・2分付近コブシ平→1222分降霧降山→池木屋山→宮ノ谷への周回コースである。登りのコブシ平は、雑誌を見て知った。ネット情報は乏しい。参考になるホームページをようやく見つけたが「熊が木に爪で引っかいた傷跡や、熊のものと思われる大糞」が大写しに載せられており、恐怖心が増すばかりであ

る。熊対策として、熊鈴（ヒグマキラー）を二個リュックに付けることにした。最も欲しかったのが、予定ルートの軌跡地図である。残念ながら見つけれなかった。この情報がないと迷える子羊である。

7時過ぎ、霧降山への標識を見て、植林の急登を行う。20分程登ると伐採された明るい斜面に出る。鹿除けのネットが二重に敷かれ延々と続いている。正面に扉があり、紐を解き中に入る事ができる。フェンスの中には薄い踏跡がある。だが、扉近くにも山道があり、テープが巻いてあった。どちらへ進むか迷う。

感覚的にはネットの中に入るのではないかと思ったが、テープの巻いてある道を選んだが、これが失敗だった。15分程登ると北方向へ進んでいくことに疑問を抱く。前に大きな山が見えたので地図を見ると△756・2分のような。これはまずいと思いつながら、しばらくフェンス沿いに扉口を探すが見つからず、最初にあった扉の所まで戻ることになった。登り始めから30分近くロスである。ネットの中に入ると太陽が燦々（きらきら）と照る厳しい暑さ。脱水状態になりそうである。尾根上までは、炎天下の地獄道だった。

池木屋山山頂



やつのことで尾根上に着く。ここからは植林帯の日陰道で喜んだが、風が吹かず涼しくない。ジワジワと体力を奪われ、水を飲む回数が多くなる。急坂になると、早めに給水をとりないと体が重くて息苦しい。こんな状態が霧降山まで続いた。結局、登山口から霧降山まで、3時間30分の子定が、何と5時間も要した。

866分は単なるピークで通過する。981分に来ると「こぶし平」と名札がぶら下がっている。広い場所を想像していたが、空が見える小さな空間地といったほうが正しい。西にシャッポ山らしき姿が見えたが展望はきかない。

Photo essay

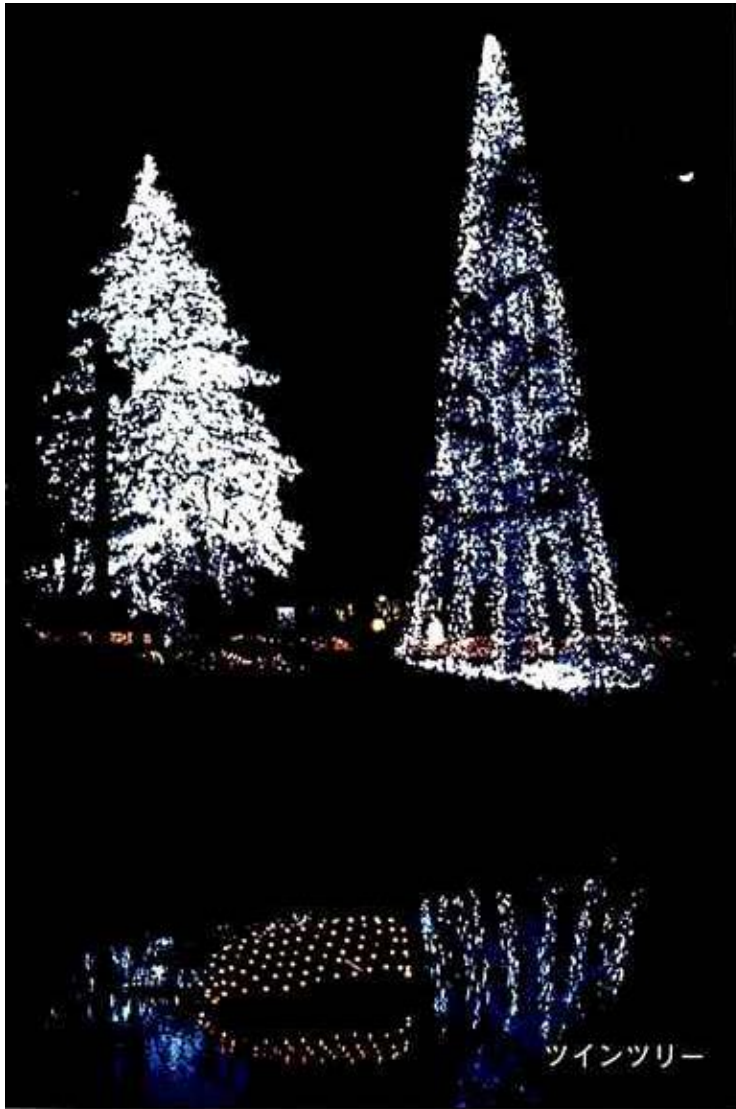
雪下生麦



題字 中田 蘭石
撮影 由井 収
文 松永 恵一

オーロラ (なばなの里)





ツインツリー

雪下出麦 (ゆきわたりてむぎのびる)

雪の下で麦が芽を出す頃
あけましておめでとうございます
植物はやさしい春の陽ざしを受け
芽吹き花を咲かせ薫^{かおり}を漂わせる
街はイルミネーション煌^{きら}めき
なばなの里^{とうか きょうえん}は冬華の競演
全国最大 最先端のLED技術
オーロラ
大自然が織り成す神秘のカーテン
幻想的に光輝くツインツリー
ブルーとクリスタルホワイト
水上イルミネーション
移り変わる鮮やかな川の色
訪れる人は息をのみ^{とりこ}虜になる



水上イルミネーション

くらま やま うし わか まる
鞍馬山に牛若丸を訪ねて

松永 恵一

牛若丸

激動の時代を駆け抜けた悲運の英雄源義経、幼名牛若丸。兄頼朝が平氏打倒の兵を挙げると奥州平泉から馳せ参じる。一ノ谷、屋島、壇ノ浦と戦い勝利し、平氏滅亡の最大の功労者となるが、頼朝と対立し朝敵とされた。難を逃れ再び奥州平泉の藤原秀衡を頼るが秀衡の死後、頼朝の追及を受けた当主藤原泰衡に攻められ、衣川館で自刃し果てた。

父源義朝が平治の乱で敗死した時牛若は2歳であった。母常盤御前は3人の子の助命を平清盛に願ひ、一時期愛妾にまでなった。牛若は平安京の北方を護る鞍馬山に預けられた。遮那王と名乗り7歳から16歳までの10年間を鞍馬で過ごした。少年から青年へと変貌していく重要な時期に、鞍馬山の果たした役割は大きい。

鞍馬山

鞍馬寺の本尊は尊天と称する。鞍馬山は、毎日を明るく正しく元氣よく積極的に生き抜くための活力を、尊天からいただくための道場である。愛を月輪の精霊―千手観世音菩薩、光を太陽の精霊―毘沙門天王、力を大地の霊王―護法魔王尊のお姿をあらわし、この三身を一体とする。「月のように美しく、太陽のように暖かく、大地のように力強く」と祈り「すべては尊天にまします」とお唱えする。

鞍馬寺の寺伝「鞍馬蓋寺縁起」によると、鑑真和尚が唐から伴ってきた高弟8名のうちの最年少の鑑真上人が、平安遷都の24年前の宝亀元年(770)に草庵を結び、毘沙門天を安置したのが始まりという。鑑真上人は靈夢を見、お告げに従い山城国

の北方に靈山を訪ねる。山の上方に宝の鞍を乗せた白馬の姿を見た。その山が鞍馬山であった。山に入った鑑真は突如鬼女に襲われ殺されそうになるが、倒れてきた枯木に鬼はつぶされてしまう。そこには毘沙門天の像があった。毘沙門天が寅の年の寅の月、寅の日の寅の刻に姿を現したことから、鞍馬寺の毘沙門天は寅を使い鞍馬の山に降臨したとの故事となり、阿吽の狛虎が仁王門前(石造製)と本殿金堂前(青銅製)で睨みをきかせている。

それから26年後の延暦十五年(796)、自分の信仰する観音を祀る寺を建てたいと考えていた造東寺長官であった藤原伊勢人は、ある夜見た靈夢のお告げに従い、白馬の後を追って鞍馬山に着くと、そこには毘沙門天を祀る小堂があった。「観音を信仰しているのに、祀られているのは毘沙門天ではないか」その晩の夢で、観音と毘沙門天は、もともと一つのものなのだと告げられた伊勢人は、千手観音の像をつくり、毘沙門天と共に安置し鞍馬寺を創建したと、「今昔物語集」は記す。昭和二十二年、鞍馬弘教が立教開宗されて、鞍馬寺はその総本山となり今日に至っている。

鞍馬寺仁王門



鞍馬天狗
大佛次郎の代表作「鞍馬天狗」は、大正十三年(1924)に第一作「鬼面の老女」が発表されて国民的な人気を呼び、昭和四十年(1965)「地獄太平記」まで47作もつくられた。嵐寛寿郎主演で幾度も映画・テレビ化がされ、宗十郎頭巾に紋付の着流し姿の鞍馬天狗は、昭和30年代までの子供であれば誰でも知っていた。幕末を舞台に頭巾をかぶった覆面(おぼん)の勤王志士「鞍馬天狗」(倉田典膳)が、日本の将来に思いをめぐらし、善を勧めて悪を懲らしめる。剣姿は焼きついていてる。

コース観覧

牛若丸や鞍馬天狗に導かれ、毎日
を明るく正しく元気よく積極的に
行き抜くための活力をいただくために
鞍馬山に出かけた。京阪電車の出町
柳駅より叡山電車に乗り換える。パ
ノラミック電車「きらら」で、終点
鞍馬駅まで約30分の旅を楽しむ。

改札口を出ると巨大な天狗の面が
迎えてくれる。土産店が並ぶ。石段
の上に丹塗りの仁王門がそびえる。
鞍馬山は大自然の宝庫、鞍馬山自然
科学博物館。愛山費200円を払う。
鞍馬は「暗部」「闇部」から転じた
という。山高く、森深く、闇はどこ
までも暗く。尊天の霊気が満ちあふ
れている。約二億六千万年前、海底
火山の隆起によって生まれた鞍馬山
に、650万年前に護法魔王尊が金
星から天降ったという。護法魔王尊



に毘沙門天・千手観世音の三身を一
体とした尊天が、牛若丸をすつぽり
包み、学を修め武を鍛えた。

正面の普明殿からケーブルが出て
いる。諸堂維持の寄付金100円で
乗ることが出来る。「参拝記念の花
びら(片道乗車券)」が楽しい。鬼一
法眼社。牛若丸に兵法を授けた武術
の達人鬼一法眼を祀る。九十九折参
道は、清少納言が「枕草子」で「近
うて遠きもの、くらまのつづらおり
といふ道」と記した表参道。杉木立
が連なり、山上の本殿金堂まで約1
キロ、右へ左へ折れながら登ってい
く。

天を衝くほどの老杉のもとに由岐
神社が鎮座する。鳥居の奥に見える
豊臣秀頼再建の割拝殿が美しい。10
月22日に行われる鞍馬の火祭りとはこ
の由岐神社の祭礼。京都三大奇祭の
ひとつで、松明が燃えさかる火の祭
典。「鞍馬の火祭り」で、鞍馬天狗
はここ由岐神社で新撰組と大立ち回
りをする。牛若丸の守り本尊の地藏
尊を祀る川上地蔵堂。道を挟んで向
かいの義経公供養塔のあたりが牛若
丸が預けられた東光坊跡。
最後のきつい石段を息をはずませ
登ると本殿金堂のある広場に出る。遠
見晴台からの眺望が気持ちよい。遠

く比叡の山頂が見える。鞍馬寺の最
高のバウンスポット六芒星の中心に
立つ。尊天の活力が充ち満ちてくる
ような気がする。本殿金堂右側の開
伽井護法善神社に二匹の蛇が祀られ
ている。平安時代の初め、修行して
いた峯延上人を二匹の蛇が襲い雄蛇
は討たれ、京都の初夏の風物詩「竹
伐り会式」の由来となった。雌蛇は
本尊に捧げるお香水を永遠に絶やさ
ないことを誓ったと伝えられている。

鞍馬山霊宝殿(鞍馬山博物館)の一
階は鞍馬山の自然、二階は文化財と
興謝野記念室、三階は仏像奉安室。
霊宝殿の前に与謝野晶子の書斎を移
築した冬柏亭がある。その脇から奥
の院に入っていく。原生林の森は深
まりを増し道は険しさを増す。牛若
丸が剣術修行に通う途中、喉の渴き
を潤した湧き水「息つぎの水」。さ
らに登ると奥州へ旅立つ16歳の牛若
丸が名残を惜しんで背比べした「背
比べ石」がある。

狭い下り道を行くと不動堂が建
つ。向かいに義経堂がある。このあ
たりを僧正ヶ谷といい、牛若丸が天
狗僧正坊から武芸を学んだ場所。謡
曲「鞍馬天狗」の舞台。牛若丸の素
性を知り憐れんだ山伏は諸所の花の
名所を案内し「自分は天狗である。

平家討滅の望みの達せられるように
兵法を授けよう」と言い、翌日から
のはげしい修行の末、約束の如く兵
法を授け再会を約して天狗は立ち
去ったという豪壮な物語。

さらに木の根道を歩く。地層が硬
く木の根は地面を這うように根を張
る。太く細く絡み合って造形の美を
なしている。一步一步注意して下り
ていくと奥の院の本尊である魔王殿
が見える。ここからは急な下り道で、
貴船川のせせらぎを聞きながら一気
にくくだる。すぐに鞍馬寺西門に出る。
貴船神社に参り、貴船川沿いを歩い
て貴船口駅から帰路につく。

コースタイム

叡電鞍馬駅(10分)由岐神社(15分)
本殿金堂(18分)奥の院魔王殿(10分)
鞍馬寺西門(30分)貴船口駅

地形図 2万5千=大原

費用

出町柳駅⇔鞍馬駅 410円
ケーブルカー 100円
鞍馬寺愛山費 200円
鞍馬山霊宝殿 200円

問い合わせ先

叡山電車(営業課) 075(702) 8111
鞍馬弘教総本山鞍馬寺 075(741) 2003

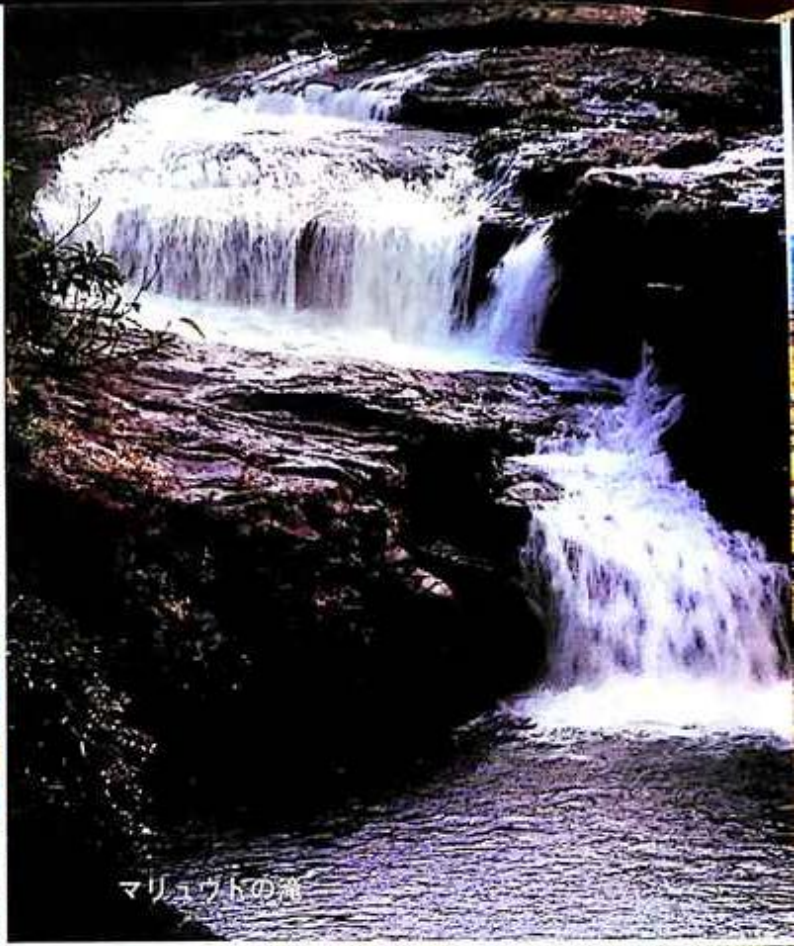
東シナ海昇陽

ギャラリー

西表島にて
武市通治



のどかな時間





ピラデスト今津の展望広場から琵琶湖を望む

湖西

コースガイド 1

里山シリーズ60 高島市
古道と家族旅行村の魅力

ももせ おうみざか 百瀬川上流から近江坂



長宗 清司

近江今津駅からタウンバス「南まわり」に乗る。百瀬川にいちばん近い南深清水バス停で下車。北へ日吉神社の先を左折して、果樹園を抜けて一直線の道を百瀬川畔に向かう。道際の水路には勢いよく清流が音を立てている。川幅のある百瀬川だが、水の流れは一部で、中州はほとんど砂の河原。砂防の堰堤が多く、上水が流れている。二つの深い大きなダムはエメラルド色に水をたたえていた。土道にはシカのヒズメ跡がある。サルや鹿の糞もあつた。木立に舞うリスに目を細め、長ものに肝を冷やす。シカが林間で跳んだ。なおも上流へと進む。以前は、ダムから510m付近に山道があつたが、利用者が無く、自然に還つてしまい、今は廃道になつていたので適当に探ぐる。

今回は、堰堤で脇道が途絶えた地点の左の出っ張りに取り付いたが、けもの道なのか急峻でアルバイトを強いられる。木の根をつかみ立木にすがつて一歩一歩上部へと移動する。しんどいけれど、やったものには味わえない充実感だ。人の立ち入らない領域に足を踏み入れて原始人の類似体験をする。たどり着いたやせ尾根には、びっしりと、緑も鮮やか

にイワカガミが群生していた。標高400m付近は、冬の季節は雪に埋もれて眠っている窪地で、靈気が漂う奇妙な世界に迷い込んだ気分である。右側が断崖のやせ尾根をぬい、やがてゆるやかな林間を登りつめると「ピラデスト今津」のオートキャンプ場の北側に出る。

午後は、酒波寺までの「古道・近江坂」を歩くことにして出発。ピラデスト今津の施設を縦断する格好で、総合案内所のある「みのりの館」に立ち寄り、目の前の二百段近い石段を上りつめると、食事や宿泊もできる「森の交流館」に着く。さらに、アスレチック広場を過ぎ、「風の吊橋」を渡つてゴルフができる展望広場へ。

芝生の広場からは180度、琵琶湖がすっきり対岸まで望める。さらに、奥へ「森のふしぎ館」の建物の外れから古道近江坂のコースに入る。最初は、谷側をコンクリートで固定した遊歩道を歩き、いったん酒波林道に出る。120m先の左側に遊歩道の階段が見え、ピーク444mを越える。古道は整備され、遊歩道は舗装道路とくっついたり離れたり、時には柳道を含む三本の道が絡み合いながら下界に向かう。

近江坂の古道



次のピークには「赤坂山」(標高深清水の三等三角点(475.2m)の標石が、刈り込んだ灌木のなかにポツンとあつた。

再び、林道を歩くが、途中道路右脇に東屋があり、ここからは、海津の集落から今津浜への湖岸が弧を描き、湖上の竹生島や対岸の長浜あたりまで望めた。撮影によい場所なので車を停めて撮影しているカメラマンに出会う。三つ目のピーク(385m)を越えて、林道最大のヘアアーピンカーブで、林道と分かれる。いよいよ青蓮山(通称酒波山?)の山城に入る。ここには、いくつも柳

コースガイド



*近江坂の由来は明治二六年、最初に国

道が麓からあって迷いやすが、あくまで目標の方向へ点在する古い赤紐をたよりに、丸い山頂付近や90度直角に曲がる踏跡を探りつつ、公園化した「青蓮山県民花の森」の展望がよい所までくだり、「風林亭」と名付けられた東屋で一服。

あとはジグザグに九十九折の広道（山辺の道）をくだり、「花の小路」から酒波寺境内に着く。

帰路は、日置前バス停まで歩いて、タウンバスで近江今津駅に向かう。

(平成21年10月10日歩く)

土地理院が地図を作成した時には、福井県三方町と滋賀県今津町を結ぶ尾根を「近江坂」と書かれているが、古くは安政五年（1858年）川原谷相論絵図には「尾見坂」と書かれていた。倉見の里にある成願寺の間見神社にあった大般若経の経巻を酒波寺に収められて以来、毎年この道を通って酒波寺に拝みに行く慣習ができた。延長22・5を、莊園寺院の偉い坊さんが近江坂を馬で往復した折、侍従達が高僧の乗った馬の後ろからつき、いつも馬の尾を見たことから「尾見坂」となったのではないかと。近年、地図作成の際、調査測量の役人に対して地元の人が「オオミザ

カ」と発音したのを、役人が「近江にある坂」と思い込み「近江坂」と記載したのではないかと、といわれている。

コースタイム

JR近江今津駅（バス20分）南深清水バス停（20分）百瀬川畔（右岸道）（30分）大きな堰堤（30分）窪地（20分）オートキャンプ場（30分）森の交流館前（10分）展望広場（5分）近江坂入口（25分）赤坂山三角点（30分）へアービンカーブ（40分）風林亭（20分）酒波寺（30分）日置前バス停（バス20分）近江今津駅

酒波寺本堂



地形図

2万5千円 海津・熊川

問い合わせ先

ピラデスト今津

☎0740 (22) 6868

人気商品紹介
◆テクリ・エル◆



オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
<http://www.h2dion.ne.jp/~kobezac>

従来のテクリの大型です。タウンユースからフィールドに小ぶりのディザック。しっかりした二本脚の設計。底部も強いケミカルラバーを使用しています。両脇が大きくなり、山登りの本格仕様になりました。

☆20L☆
*カラー レッドXチャコール・マゼンタXチャコール
パープルXチャコール・ライムXチャコール
ブルーXチャコール

*重量 700g
*素材 高密度ナイロン
*価格 ¥8,000+消費税

イモック山遊行くらぶ
春夏秋冬、季節を気にせず、熊山・飯山・名山を訪ねます。お気軽にご参加下さい。



IMOCK KOBE

〒650-0025 神戸市長田区日高町3丁目1番30号
カネノビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間/10:00~20:00 日曜・祭日不定休



JR大津京駅ホームから宇佐山

近江神宮から宇佐八幡宮を経て

う さ や ま
宇佐山へ



松尾 一郎

跡が右に現れ、さらに車道を北上すれば柳川橋に着く。ここで車道と分かれ、鬱蒼とした

近江大津宮錦織遺跡の石碑



JR大津京駅で下車。改札を出て南へ進み、歩道を右にとり湖西線のガードを通り抜け、次いで京阪石山坂本線の半地下ガードをくぐり、皇子が丘二丁目交差点を右に曲がり、県道47号を北上する。錦織二丁目交差点を過ぎると、近江大津宮錦織遺

今回は天智天皇を祭神とする大津市の近江神宮に参詣し、次いで900年余の古い歴史を誇る宇佐八幡宮を拝して、宇佐山に登頂する。なお、宇佐八幡宮から近江神宮一体の南西斜面は六世紀の宇佐山古墳群遺跡に指定されており、近年発掘調査が行われた。
また、宇佐山山頂には戦国末期の元龜年間(1570-1573)、天下布武を進める織田軍が、抵抗勢力の浅井・朝倉連合軍に対抗するため構築した古戦場跡の宇佐山城址がある。

宇佐山へは境内右奥から少し車道をくだり、左へ「宇佐山城址」のブリキ案内板に従い山道に入る。宇佐山登山路は以前は枝道が多く道標もなくわかりづらかったが、最近地元志賀小学校の児童達がつくった木製道標が山頂近くまで随所に設置しており、道に迷うこともなくなった。杉の植林に覆われた薄暗いつづら折

森に囲まれた近江神宮境内に入る。正面参道に出て左に入り、階段を上って二の鳥居をくぐり、さらに階段を上れば朱塗りの楼門が現れ、門をくぐると神宮本殿が鎮座する。境内には博物館・時計館(有料)もあり、天智帝の漏刻に始まる時計の歴史を垣間見てもよい。
参拝が済めば境内を南に進み駐車場に出て、傍らの「よいこのもり保育園」門の左たもとから細い地道に入ると、大きな案内石塔の建つ宇佐八幡宮への登り口に着く。向かって右側の急坂の参道を登り、鳥居をくぐると坂がゆるくなり、迂回路を合せて幅広い参道を登って行く。右手に宇佐山の霊泉といわれる金殿井(注1)の祠を見て、車道を右に分ける。さらに参道を登ると階段が現れ、登り切れば宇佐八幡宮の境内に入る。

宇佐八幡宮への石段



宇佐八幡宮登り口の石塔





「宇佐山城址」のブリキ案内板

宇佐山への舗装階段



山頂南側には作業用簡易モノレール

れの山道を登って行けば、やがて明るい落葉広葉樹も交え、峠状の宇佐山と三ノ丸との鞍部に着く。鞍部は四差路になっており、左のコンクリート製の階段を登れば、NHK中継所数棟が所狭しと林立する宇佐山山頂(335m)に登り着く。樹木と建物に遮られ見晴らしは期待できない。

ルが山中越側から急坂を登ってきており、モノレールに沿ってくだって行くと、アンテナが林立する平らな二ノ丸に出る。二ノ丸にも山城跡の石垣の一部と石仏三体が鎮座している。山頂直下(東側)には出丸もあり、ここもアンテナが林立している。山頂よりコンクリート製階段下まで戻り、階段登り口の東脇から踏跡をたどると、宇佐山城本丸跡の石垣下に出るが、足場はよくないので注意する。鞍部に戻り、まっすぐ(北)進むと小ピーク状の三ノ丸で、ここも城跡の一部で石垣が残っている。

さて、下山は鞍部へ戻って、西へ乗越す道(道標なし)をくだると、宇佐山の背後を廻り山中越車道に出られる。道の状態は思いのほかよく、どんどんくだって行くと高圧送電用鉄塔のたもとに下り、鉄塔の手前で左に入り、山頂からのモノレールに合流する。レール沿いの階段状の道をくだると平地に下り、モノレールは終点となる。広いクランク状の地道を進むと、大きな金網の鉄扉が締まっている。扉の右脇から擦り抜け山中越車道(県道30号)に出て、車道を右(北)へ300mほどくだると京阪バス榎尾バス停に着く。JR大津京駅前行のバスを待つ。バスの

便数は少ないので事前に確認しておく。山中越車道は南滋賀へくだってゆくが、歩道がないので通行は危険である。

なお、榎尾発のバス時刻に間に合わないと思ったら、山頂鞍部から山中越側に下りず、元の近江神宮側(鞍部)へ(35分)近江神宮)に戻る。

(平成22年5月1日、7月10日歩く)

コースタイム

大津京駅(10分)錦織二丁目交差点(5分)柳川橋(7分)近江神宮(4分)宇佐八幡宮登り口(15分)宇佐八幡宮(25分)鞍部(時)(2分)宇佐山山頂(4分)二ノ丸(5分)宇佐山山頂(2分)階段下(3分)本丸石垣(3分)鞍部(4分)三ノ丸(4分)鞍部(10分)鉄塔下(5分)金網扉(山中越車道歩き6分)榎尾バス停

地形図

2万5千 京都東北部

(注1)天智の御代、近江朝廷重臣の右大臣中臣金(内大臣藤原鎌足の従弟。壬申の乱(672)の近江朝廷敗北で新刑に処せられる)によって発見され、天智天皇の病を癒したことから、霊験あらたかな霊泉といわれている。

続・近江側から登る鈴鹿の山々 31

雪の尾根から展望を楽しむ

ミクネ・大杉大王



磯部 純

向かう。右岸に渡ると杉林の山道へと変わる。落合で10^分程の積雪は上流へ向かうほどに深くなってくる。谷が右手へ曲がる地点から左斜めへ登ると汗拭峠へ着く。峠では40^分も積もっていた。

汗拭峠から尾根を西へ登る。霊仙山への尾根にはしっかりとしたトレースが付いているが、西の尾根は人が歩いた跡がない。ゆるく登り、平坦になると尾根は右手へ曲がるが、その曲がり角から南へ急斜面をくだる。地形図にある下の尾根は見えず、まるで谷へ下りるように思えた。

雪の急斜面をくだると、細い平坦な尾根にのる。左手は大洞谷、右には宗谷の源流。ゆるくなつた尾根を南へくだると、白い雪面の雑木疎林が何とも言えぬ情緒を見せてくれる。ゆるくくだって尾根が西へ向くと、平坦な鞍部へ下りた。情緒ある雑木林で峠のような鞍部である。この林を抜けて杉林の尾根先端へ向かうと、正面の斜面手前に鞍部を乗り越す道跡がある。ここが**柎板峠**である。柎板峠は落合と柎ヶ畑・丹生を結んだ古い道の峠であった。霊仙山登山に汗拭峠が利用されるようになった。しかし、汗拭峠より柎板峠

のほうが峠らしい面影を残しており、しっかりと昔の道跡が刻まれている。雪の斜面を北へ登る。北方が開け、正面に冠雪の伊吹山が目に見え込んでくる。東には見上げるような高さに見つ白の霊仙山の西斜面が迫る。ここから方向を西へ変え、尾根を10分も登って行くと、平坦な疎林のピークへ着く。ここがミクネと呼ばれる。木に「ミクネ 555^m」と書かれたテープがあるが、ミクネの山名は意味不明で、何が由来なのかはわからなかった。

ここから方向を変え、北へのびる尾根を登って行く。次第にやぶが濃くなり、木々の間をぬって右や左に振りながら登らなくてはならない。小さなピークを越えて、狭いやぶの尾根を登ると平坦な広いピークに着く。木々の間から後ろには、男鬼の南に南西に横たわる尾根が間近に見えていた。いちばん東端に見えるピークが高取なのだろう。

ピークから北へくだり、細長い平坦なピークを越えて、目の前の斜面を標高差40^mも登ると、平坦な広いピークへ登り着く。このピークが標高点634^mであった。ピークの東側は伐採されて雪原が広がっていて、展望は抜群。すぐ東には霊仙山の西

壁やお猿岩から経塚山への尾根、霊仙山の最高点から南霊山へ流れる尾根が、圧倒される

霊仙山をバックに全員が揃う



ような姿で目の前に迫ってきていた。その左手には阿弥陀ヶ峰があり、右手の山の間から頭を出しているピークはタカヤなのだろう。北方には伊吹山がクッキリと座り、虎子山、板並山までも見通すことができた。まさに圧巻と言うべき光景であった。こんな光景を眺めながらの昼食は最高であった。

尾根を北へくだり、鞍部から左へ捲くように登るとCa620^mのピーク。山頂には切り開きがあり、ゴツゴツした岩が目につく。その岩に注連縄が巻かれている。この山頂から右手の檜林にそって、ゆるく開けた雪原の尾根を西へくだって行くと、台杉のように八方に枝分かれした幹の直径が2^mもあるような大杉が立っている。その前には小さな社が建っていてお供物もある。こんなへん

霊仙山西と男鬼山東の山城の案内書はほとんど見当たらない。厳寒の2月、汗拭峠から大杉竜王へと続く尾根を、岩野さんの例会で初めて歩いた。西尾氏の「鈴鹿の山と谷」にも載っていない山城だ。

今畑登山口で駐車する。ここから落合へ行く。落合は、昭和30年頃から離村が進み、夏に来て畑作しているが、冬のこの時期はまさにゴーストタウンである。

落合から大洞谷沿いの林道を北へ



大杉大王 (大杉と祠)

びな所でもお参りに来る人がいるよ
うだ。ここが大杉竜王と呼ばれる、
近江高天ヶ原伝説に関連する場所だ
ある。
その伝説を要約すると、「約75
0万年前、丹波国の貴天原真那井
原丹庭(天の橋立にある龍神社の奥の
宮)に、幼名大丹生童子と大丹生童

女が降臨した。二人は六根(感覚や
意識によって世界を認識する六つの根
源である目、鼻、耳、舌、身、意)を磨いた
め、若狭から動物と植物を供にして
旅に出たが、成人した時に、伊勢市
の月夜見宮のある弥丹庭で再会して
結ばれ、伊邪那岐命、伊邪那美命と
名乗られた。その後、二人は多賀神
社の旅所である調宮栗栖の地で、男
子19人、女子19人をもうけて500
0年の間活動したが、伊邪那岐命は
一生を終える時に、この山に入定し
た。一方、伊邪那美命は、伊邪那岐
命の入定の12時間後に比叡山に御遷
還し、比叡大神として祀られた。こ
の杉の巨木には、霊仙三蔵法師が記
紀にある歴史でなく、真の歴史を伝
えるために大杉に注連縄を巻いて神
木として、三神(伊邪那岐命、皇

親神漏身命
(動物)、皇
親神漏樹命
(植物)を
祀った」と
いうもので、
Ca620(武
奈山)にあ
った注連
縄の岩は磐
座で、この
山を北原竜宮と呼び、伊邪那岐命の
御魂処であるとしている。近江高天
ヶ原伝説は知っていたが、詳細を知
ったのは初めてのことで、鳥居本が
伊邪那岐命の墓処であり、鳥居本の
ある場所を中心の意味を持つ彦根と
呼んだとの、意外な解釈に驚く。ま
た比叡山は、これまで伊邪那岐命の
御魂処と思い込んでいたが、伊邪那
美命が祀られていると初めて知った。
社に手を合わせ、尾根を西へくだ
って林道へ下りる。林道を南へくだ
ると、尾根を捲いて三叉路へ出る。
左へくだると落合へ向かうことがで
きるが、時間が許すなら廃村武奈を
訪ねてみよう。三叉路から右の道を
とり、左檜、右杉林の道をゆるく登
って行くと、尾根にのった所が米原
の番場から来る道の分岐。ここまで
は車でも入れそうに思える。ここか
ら道を南へくだり、男鬼峠、廃村明
幸へ向かう道と分かれて、左へ道を
くだると武奈へ着く。

一軒だけは真新しい屋根の家屋が
あったが、他はいずれも廃屋のよう
だ。武奈は、江戸期には明幸と合わ
せて六十五石の石高で、牛蒡や里芋
を産し、炭や林業で生計を立ててい
たらしい。今では離村が進み廃村に
なっているが、落合と同じで、住人
は彦根や米原に住み、雪が消えると
畑作に来るといふ。岩野さんによれ
ば、「鈴鹿山系でフクジュソウがい
ちばん最初に咲くのは、この武奈集
落だ」と言っていた。家の石垣の下
の雪の中から、黄色い花が顔を出し
ていた。春早い雪の時期にこんな山
城を歩くのは、この花を見る楽しみ
があったからだろう。
武奈から東へくだる。村外れの水
飲み場にあった三休地蔵が、久し振
りに人に会えて微笑んでいるように
も見えてた。谷沿いの杉林をくだり、
大杉大王から来ている林道へ出ると、
右手へくだる。林道といっても何ヶ
所も崩れた所が補修がされておらず、
車は通行できない。ひたすら20分も
歩くと男鬼から来た道に出て、15分
も林道を東南へくだると落合へ戻っ
た。(平成22年2月7日歩く)

コースタイム

今畑登山口(5分)落合(50分)汗拭
峠(30分)榎板峠(25分)ミクネ(1
時間)標高点634(25分)大杉大
王(30分)武奈(50分)落合(5分)今
畑登山口

地形図

2万5千彦根東部

テレビで紹介された 旗振り通信Ⅱ

柴田 昭彦

「タイムスクープハンターについて」

前回、平成22年4月12日放映のNHK番組「タイムスクープハンター」の第3回「速報セヨ！旗振り通信」について、5月28日深夜の再放送への反響も含め、詳しく報告した。

今回は、インターネット検索で6月20日に見つけた「タイムスクープハンター」および「速報セヨ！旗振り通信」に対する、5〜6月の反響記事の一部を紹介しよう（複数のコメントに対して、出典は末尾に記した）。

「この番組が取り上げるネタは、いわゆるリサーチ中に『このネタ面白いなあ』と思いつくながらも『でも地味だからなあ』と捨てざるを得ないような話ばかりである。ヒーローも出てこないし、大事件も起きない。だが、ちよつと人に話したくなるような面白さがあるのに、取り上げることが出来ない。テレビ制作者なら誰でも経験がある歯がゆさだ」

「どのネタも面白いのだが、個人的に一番、印象に残っているエピソードは『速報セヨ！旗振り通信』これは明治時代、大坂の米相場を一刻も早く他の地域に伝えるために、数十キロごとに離れた山の上で、旗と望遠鏡を使って価格情報をリレー式に伝えていたという話である」

「番組を見ながら視聴者は、携帯やネットの無い時代でも、価値ある情報は日本を駆けめぐっていたとい

うことを知るのである。しかもエンタテイメントという手法で」

（5月27日、番組・タイムスクープハンターの魅力、MM編集部）

「個人的に好きな回は旗振り師と時太鼓かな。旗振り師はすごいね」「旗振り師や和算の回が代表なのですが、今に存在しなくなった職業紹介みたいなのが割と興味深い」「未知の歴史を発見する面白さみたいなものがありますね」（6月5日、沢嶋雄一クンのイケナイ好奇心）

「旗振り面白かった」「野外ロケはほとんど庄内映画村ですね」「医僧とか手旗信号とか印地打ちとか、取り上げるネタがウルトラマニアックなところがいい」「夜中の再放送で手旗信号のやつをみてもよかった」「本来なら民放の歴史バラエティがこれをやってほしいのにな」（6月12〜14日、明和水産・テレビ掲示板）

（*旗振りの回のロケ地は日光江戸村）

平成22年6月21日の午後10時55分〜11時25分には、タイムスクープハンター・セレクトションとして、「速報セヨ！旗振り通信」が再放送された。これに対するインターネットでのコメント（テレビジン、2ちゃんねる）も同様に紹介しよう。

「太閤立志伝だと100貫払えば米値がわかる」「風林火山で勘助が100貫の知行でという条件で武田家に仕えてた」「DVD化決定」「のろしとかも光通信の部類。古いタイプのね」「壮大な伝言ゲームだな」「パソコン通信のプロトコルの原型な」「これって光によるデジタル文面通信だよな」「よく考えたら望遠鏡2つ用意した方がよくね？」「チェックサムの概念である」「電信は高すぎるのか……」「望遠鏡一つのシリアルポートか」「そんな遠くまで本当に見えるのか？」が

ソリンスタンドの値段表みたいなデカイ数字表じゃ見えないの？」

「これ、最初に中継ポイントを探すの大変だっただろうな」「電話すれば早いのに」「セキユリテイ無しのダダ漏れだな」「鳩とどっちが早いかな」「この仕組みは歴史が古そうだな」「ネイサン・ロスチャイルドは伝書鳩使ってた」「旗振り通信は公務員扱いじゃないの？」「※演出上望遠鏡は一つでやってます」「昔の大坂商人はおもろいこと考えるな」「旗振りって何年続く仕事なんだ？」「アフリカの人だと望遠鏡なしで通信できそうだな」「ちよつとした雨で通信不能になりそうではないか」「大正時代まで旗振りってあったのか……すげえな」

「大文字焼きみたいによればいいんじゃないか」「旗振りって禁止されてたんだ」後のパソコン通信である「大きな紙に〇〇円って書いて掲げればいいのに」「飛脚は圧力団体だったんだな」「TCP/IPエラー訂正プロトコルも組み込めば完璧」「19世紀初頭のヨーロッパの腕木通信ではそれをやっていた」「へー、単純なチェックサムかな」「早いな、おい」「もしかして光ファイバー超えてる？」「時速換算で約520km/hか」「腕木通信とか知らない人多いな」「インサイダー取引」「暗号化技術キター！」「SSL使ってるのか」「雨降ったらダメか」「当然符牒は変えてくたろうな」

「江戸時代からこんなんやってたんだな」「これって本当に忠実な実話なの？」「途中の旗振りを拉致監禁して、自分たちが旗振りのふりをして、都合のいい数字を伝達して、相場操作で一儲けとかありそう」「そのための暗号化でもあるだろうな」「統計的手法で割り出される前に暗号表を替えるのが基本」「大阪発で1時間あればほとんどの地域をカバーできそうだな」「なんか、面白いなあ、どっかの民放実験してくんないかな、北海道から鹿児島まで旗での通信で何分かかるか、他の手段とかと比較してみたい」「明治時代も治安悪いんだな」

「神回だった」「記録係も必要だな」「TSHでは望遠鏡バクする場面があるから、(望遠鏡は)1つになつたのか」「今日のは特に面白い」「これは取引所開のやりとりしかないのか 商人同士が競つてるんならいくつも経路が必要だもんな」「これとつから給料来るの?」「通信社から雇用されてるっていつてなかったっけ」「旗振り師は薄給だったのか」「そーいや報われない職業だね」「旗振り師の給料は、現在の金額にするとも月給12万円 安いなあ」「これ実話?」「定額制情報サービスだからか」

「今回は水運ぶやつ並に面白かった」「人気投票か」「まさかのアンケートきたあ」「シーズン3はよ作らんかい」「全部面白かったな」「DVDか?」「NG収(録)希望」「(シーズン)2はハズレがなかったな」「旗振り通信がやっぱ最高だな」「DVD化、決定してる」「電話や電報で来てからはどうやって食つていったのだろう 測量技師にでもなったんかな」「シーズン1はもうDVD化してNHKにしちゃ安いと聞いたな」「こんな為替市場も旗振りで伝えていると思うと胸が熱くなるな」

以上のようなコメントに対して、まとめをしておこう。

望遠鏡が2つ必要という意見については、前回に述べた通りで、脚本で演出上は「一つの望遠鏡にしておいて緊迫感を高め、盗まれるという設定に便宜を図つてある」というのが真相で、明治時代、岡山ルートでは2つを使うというのが通例であった。

チェックサムとは「確認用の和」のことで、データを送受信する際の誤り検出方法の一つである。データが途中で増減したり欠落するなどして、間違つていなかを確認するためのもので、送り手側と受け手側それぞれで、一定の決められた方法で、データを足し算した値を算出して、一致するかどうかを調べるのである。送信前にデータを分割し、それぞれのブロック内

のデータを数値とみなして合計をとつたものである。JANバーコード(JIS規格、日本の標準規格)やクレジットカード番号の最後の桁のように、1桁で番号が正しいかどうかを判断するものは、チェックサムではなく、チェックディジットと呼ばれる。旗振り通信の合印(1桁または2桁)の場合は、チェックサムというよりも、チェックディジットに近い確認方法と言えらるだろう。

シリアルポートとは、USBのようなシリアル(直列、一つの経路)方式でデータを送受信する通信方法を行うポート、インターフェース(電子回路装置)のことである。ここでは望遠鏡の機能を指している。旗を振るのでなく、大きな数字表を提示すればよいのでは、という指摘については、望遠鏡で視認可能な大きな得点表示布(各10枚ずつ重ねたもの)を4つ並べるといふ大がかりな装置が必要だといふ欠点がある。装置を回転させて向きを変えられる方法か、同じ装置を2種類用意する方法のどちらかを取らざるを得ず、実用的ではなく、旗振りの方が遙かに簡便である。セキュリティーに関しては、送る数字そのものが暗号化されているので、問題ないだろうが、回転数よりも盗まれやすいという欠点がある。

大文字焼きと同じ方法というのは、言うのは簡単だが、地表で、4つの異なる数字をどうやって表現するのだろうか。旗振りの回転数による数字表現は、簡単な道具で数字を自在に表現できる究極の方法と言える。TCP/IPとは、インターネットやイントラネット、標準的に使われるプロトコル(通信規約・通信手順)である。

SSL(セキュアソケットレイヤー)とは、インターネット上で情報を暗号化して送受信するプロトコルで、セキュリティーを要求される通信のためのプロトコルである。旗振り通信が事実かどうか疑う向きもあるが、各地に証言者がいることから裏付けることが可能である。驚異的な通信速度が疑いを持たせてしま

のだろうが事実である。

民放テレビでの旗振り通信再現実験を期待する向きもあるだろうが、過去に何度も行われており、今後は、小規模なものも行われるとしても、大規模なものは、吉井正彦氏の岡山ルート再現実験(昭和56年、26カ所、170人、約50人を動員)の二番煎じになるので、実現の可能性は薄いのではないだろうか。

全国が晴天の日を気象予測で選んで準備を行い、北海道から鹿児島まで約2400kmにわたって、平均60人を動員する大がかりな実験となる。1回の送信(数字4桁)に2分かかる場合、総送信時間は800分(13時間20分)である。朝6時に北海道で送信開始すれば、最終地点の鹿児島への到着は、夜19時を過ぎるが、時差50分なので、日の長い時期なら日没に間に合う。とはいっても、机上の空論で、実際の所要時間は、800分を遙かに越えることだろう。

岡山ルートの再現(所要2時間余の約15倍に相当する日本列島縦断・大規模旗振り実験がいかに困難かは理解してもらえないのではないだろうか。世界記録に挑戦するイベントとして立案し、大企業のスポンサーが多数現れない限り、実現不可能と言わざるを得ない。記録係が必要なことは確かだ、送られてきた4つの数字を確かめると同時に、相場付帳に記録しないと、忘れてしまうことになりかねない。望遠鏡で読みとられて声に出された数字は、即座に記録されたことだろう。

江戸時代には非公認であった旗振り通信は、各地の米穀商人や米相場師が私設のルートを作っていたので、場合によっては、競合する場所もあったが、江戸時代の旗振り場の実態そのものが不明なので、どのような競合状況であったかは、よくわからないというのが正直なところである。

通信に便利な場所というのは、江戸時代当時、山野

を走り巡っていた人々によって独特の観察眼によって発見され、口コミによって伝えられたと考えられる。結果として、同一の山が利用されたこともあっただろう。

明治時代には、通信業者によって営まれたので、同じルートが競合したこともあったが、有力な業者が競争に勝ち、相手はつぶれるというのが通例であった。競合した場合に、同じ山頂で人員が競合したかどうかを示す資料は残されていない。暗号が異なるので、同じ場所でも問題はないが、お互いにライバル心を燃やすことになるので、別の山に旗振り場所を設けたことだろう。同じ山になった場合でも、旗振り地点は、お互いに見えない場所にしたに違いない。

6月21日の夜の「速報セヨ！旗振り通信」の再放送の終わりで、「タイムスクープハンター シーズン2」全10回の終了を機会に、番組を見た読者からのアンケート（お気に入りの回）の告知があった。

「速報セヨ！旗振り通信」は、6月25日までの100件近い投票数による中間集計結果では、僅差で1位になっていた。7月9日に投票が締め切れ、最終的に、人気投票で1位となったのは「襦袢かき突破口」で、「速報セヨ！旗振り通信」は第2位となった（7月16日発表）。

先のコメントにあるように、旗振り師は、あまりよく知られていない職業であるが故に、人気の上位を占めることができたようである。

大正7年以降、職業としての旗振り師は存在しなくなった。通信社から解雇されたわけである。といって、農業などの本業をしながら、兼業として旗振りに従事していたので、失業というわけではない。旗振り師としての収入はなくなったとしても、本業に専念する、あるいは、新たな兼業を見つけるといった形で生活を維持したことだろう。

「タイムスクープハンター シーズン2」も、発売中のシーズン1に続き、平成22年秋にDVDが発売さ

れることが決定した（11月26日発売）。

「タイムスクープハンター」で旗振り通信が取り上げられた結果、地上波放送での初めての紹介ということで、一般視聴者に以前よりは知られるようになったようである。

その裏付けとして、ウイキペディア（インターネットで普及しているフリー百科事典）に、平成22年4月から「旗振り通信」が立項されたことがあげられる（通信方法の内容は改善が必要）。それまでは、「腕木通信」の項目の一部分としてふれられているだけであった。「旗振り通信」が立項されることは、本誌108号（55頁）での希望が叶ったもので、今後、次の段階（英文のレポート）が必要であろう。

「ふるさとQ」について

平成22年3月12日、NHK津放送局、放送部記者、深川亮司さんから連絡があり、伊賀の國地名研究会の運営委員、米澤範彦さんから紹介されたということで、筆者に、伊賀市のケント山など、旗振り場の現地取材に協力して欲しいとのことであった。

NHK総合テレビで毎週月～金の夕方6時～6時半に「ほっとイブニング」という東海地区の番組がある。続く6時半～7時に、三重県内のニュースや話題を放送する「ほっとイブニングみえ」という番組があり、毎月の毎週金曜日に三重県内の市や町を1か月にわたって（月4回）スポットを当てる「ふるさとにQ」という5～8分間枠のコーナーがあり、4月は伊賀市特集であった。

4月2日の「ふるさとにQ」で、伊賀市での旗振り通信を取り上げたいとのことだった。来る3月20日に伊賀市下阿波のケント山、上阿波の茶屋跡と県境のケントヤマを現地調査したいこと、現地で、旗振りの話や振り方の実技指導をしてほしいということであった。

3月20日、天気は上々で、9時過ぎに、「JR伊賀上野駅に着いた。伊賀の國地名研究会の池田裕さんの車

で、伊賀市下阿波の坂本家に近い寺坂橋バス停（ケント山の登り口）に到着した（本誌111号参照）。

ケント山に登る準備が整うまで、忍者研究家でもある池田さんが取材で顔見知りという曾我隆清さんの家に行こうということで同行する。ケントの歌によみこまれた「曾我のフクさん」の家である（本誌111号参照）。隆清さんによると「坂本家の屋号がケントであることは知っているが、米相場のことは聞いたことがない」「曾我のフクさんに心当たりはない」「曾祖父の名前はソウジロウではなく、ヨウジロウと聞いている」とのこと、本誌111号の48頁の記述は訂正が必要である。ケントの歌の謎は深まるばかりであるが、おそらく、創作なのだろう。

バス停に戻り、準備が整うと、ケント山に向かう。登り中心に撮影が行われた。頂上では、冬枯れもあって、高旗山、上阿波ケントヤマの方向は、今まで登った中で、最も見通しが良い。足下の良くないトラバース道を歩いたので撮影隊には気の毒であったが、遭難することもなく、無事に下山できた。

神徳寺の下あたりで昼食を済ませたあと、午後には、上阿波へ向かう。トチノキ峠で車を降りると、茶屋跡付近の土地を現在所有しているとおばあさんが先に来ておられた。撮影をするために土地に入ること、立ち入りと撮影の許可のために予め知らせてあったので、様子を見に来たのだという。

その地主さんは津市美里町の平田さんで、旧大山田村の横尾家が茶屋を営んでいたことも、ご存じのようであった。茶屋跡が平田家の所有になったのは、昭和期のことらしい。

インターネット検索で見つけた「南長野12志会活動記録」の「テレビ局が来ました。」（2010年3月20日）には、おばあさんと同行した男性のレポート記事があり、撮影風景の写真なども紹介されている。少し前の記事「長野峠茶店跡」（3月15日）によると、「近く」に風車が出来て駆動音が聞こえてきます」「幼少の頃、



茶屋跡で採集された陶器類



上阿波ケントヤマへの入り口



県境の見晴らし台から津市方面を展望

時の茶店あとで育ちました。今から50年ぐらい前の話です。近くに人家は無く小さな山小屋と露天風呂がありました。「お風呂の屋根が無かったただのことです」と証言していて興味深い。風力発電施設のウインドパーク美里ができたのは最近である。

茶屋跡付近の小さな流れあたりで、茶碗やお皿の陶器片を見つげながら撮影を行い、続いて、車で県境のケントヤマに向かった。茶屋跡とケントヤマについては、本誌110号で詳しく述べているので参照されたい。

ケントヤマの山頂への尾根道の途中の見晴らし台まで歩いて同行された平田さんは「茶店跡」「ケント山」といった看板が、自分の土地に「無断で」立ててあるのは困ると言われたが、今回の立ち会いで理解を示された。「ケント山」の看板を作って設置した倉元さんは、

今では地名研究会の会長を辞して空席という（副会長の池田さんによる）。

視界のないケントヤマの山頂まで往復したあと、津市内の眺望できる見晴らし台で旗振りを実演し、深川さんに振り方の実技指導を行った。平成21年7月5日のケーブルテレビ「時の散策」（本誌113号参照）の撮影に用いた場所と同一で、やはり風が強かった。慣れない深川さんの旗振りは腰が引けていたが、回数を重ねるうちに良くなっていった。

4月2日の「ふるさとにQ」は、予定通り、三重県内で放映され、筆者は、4月17日に届いた録画DVDによって内容が確認できた。とてもわかりやすい内容になっている。HPに「ふるさとにQ」の紹介コーナーがある。

次回以降は、過去に行われた旗振り通信の大規模な

再現実験のテレビ放映の録画内容を整理して、改めて紹介する予定である。

○姫路・岡山ルートの再現（昭和56年）
 ○「ウルトラ通信科学館」（昭和59年）
 ○「TVMック謎学の旅」（平成3年）

また、最新情報として、単行本「ゲゲゲの女房」記載の旗振り場、三重県四日市市大矢知町で新発見の旗振り場を紹介したい。

（つづく）
 （平成22年7月24日成稿）

山行報告

9・10月

湖北 伊吹上平寺城跡

(金曜里山ハイキング31)

9月4日(出) 晴れ

(集合)JR近江長岡駅9・45(タクシー)上平寺10・15 伊吹神社10・30 上平寺城三ノ丸跡11・35(昼食)12・20 大畑切12・30 P838・7 13・00 弥高寺百坊跡13・40 林道出合13・55 14・10 14・30 山地道出合14・30 弥高平野神社15・00 15・15 伊吹15・15(入浴)16・09(バス)近江長岡駅16・20(解放)

9月4日(出) くもり
(集合)JR姫路駅9・20(バス)道の駅(バス・昼食)殿下コース登山口12・15 阪ノ谷コース出合12・50 三ノ丸13・10 氷ノ山14・10 26 神大ヒュッテ14・52 大段平15・27(バス)まほろばの湯16・55(入浴)17・30(バス)姫路駅18・55(解散)

まずまずの天気にも恵まれ、殿下コースで山頂を目指す。六粟市の最高地点三ノ丸で記念撮影。山頂避難小屋の近くのを助みに1510mを指し、途中、千年キャラボクに立寄り、頂上に立つ。雨雲の近づくのを感知し、早々に下山した。

- 参加者
- 川田位子 木村 豊
 - 今津省司 松上美代子
 - 十島 喬 小田潤子
 - 兼子衣代 三野 旭
 - 栗栖崇吉 岩本彩子
 - 金谷 昭 光川二美子
 - 柳川常雄 森井 潔
 - 兼田幸子 君塚郁子
- 大和 萩 須磨岡 輯 (計25名)

9月5日(回) 晴れ

(集合)君ヶ畑バス停8・10(車)御池林道から瀬川谷林道終点9・00 P931 10・10 サンヤリ11・10 P924 11・40(昼食)12・30 天狗堂13・10 宮坂峠14・55 君ヶ畑15・35(車回収)16・30(解散)

涼を求めてアナを主にした深い樹林の秘境を歩く。長大な尾根は涼しい。そよ風が吹き上げて最高。サンヤリ、天狗堂で眺望を楽しみ、宮坂峠から八丁坂を君ヶ畑にくだった。瀬川谷林道は舗装され、P882のすぐ下まで車で登れる。

- 参加者
- 磯部 純 奥野太一郎
 - 栗本敏夫 木下朝子
 - 谷 守 池田隆一
 - 永戸鉄治 中澤典司博
 - 上馬秀夫 吉岡うた子
 - 池田繁美 居原田幸弘
 - 一芝美知子 一芝義雄 後藤康幸
- 岩野 明 (計21名)

北山トレイル東部1
比叡山から大原(ゆっくり歩こう8)

9月8日(休) 仲谷礼司
*雨天のため中止しました。

台湾 新道峠から修験業山

9月9日(休) 晴れ

フチホテル リすの森

〒308-1200
長野県上田市吉平高畠スイス村
電話 0268-174123
http://www.fuchihotel.com/

三英自動車株式会社

電話 0268-541130
ファクス 0268-541332

ロッジ・アールテ

〒308-1401
長野県野市戸隠本3861の3
電話 026-254-3878

ホテルむつみ 竹節

〒308-10401
長野県下高井郡山ノ内町志賀高原一の瀬
電話 0269-341270
http://www.stokogen.jp/

メイプルハイム

〒308-1241
長野県上田市戸狩温泉スキー場
電話 0269-120088
F 0269-1312
http://www.mayplehome.com/

修験業山山頂 (○西上)



修験業山から下山 (○西上)



天狗堂山頂にて (○一芝)



三峰山にて (○西上)



(集合)近鉄橿原神宮前駅 8:05 ~ 10 (バス) 月出の里登山口 9:55 ~ ワサビ峠 10:50 ~ 新道峠 ~ 三峰山 11:45 (昼食) 12:20 ~ 平倉峠 12:50 ~ 洞谷山 ~ 黒岩山 13:55 ~ 修験業山 14:50 ~ 栗の木岳分岐 ~ 若宮八幡 18:00 (バス) 橿原神宮前駅 19:30 (解散)


台風の影響でバスが林道の登山口まで入れるか心配だったが無事到着できた。ロングコースで少しタイムオーバーになったが、山並の景観を楽しみ、初秋の野の花も見ることができた。

参加者

- 渡部和美 片桐英樹 中江南海雄
- 岡安紀征 稲津謙治 石倉真佐子
- 飯島 啓 三輪直文 松上美代子
- 三野 旭 狩野東彦 佐藤優美子
- 池田 茂 池田繁子 横山真由子
- 山口敏明 平 清子 野間さよ子
- 川俣 勲 〇下郡正年 〇西上和 (計23名)

伊勢 堀坂山

9月11日(出) 晴れ
 (集合)JR石山駅 7:30 (車)松阪森林公園 9:30 ~ 雲母谷林道 ~ 展望所 12:10 (昼食) 13:00 ~ 雌岳 12:40 ~ 堀坂山 13:10 ~ 堀坂峠 14:10 ~ 観音岳 15:30 ~ 岩内町 ~ 森林公園 18:20 (車)石山駅 20:00 (解散)
 東尾根まで上がると快適な道が難

	<p>国民旅館 大山館 〒689-1301B 鳥取県西伯郡大山町大山 22 電 0859-5212531 F 0859-5216062</p>	<p>国立公園大山大山登山口に近 名物大山おこわ・飛酒 食材にこだわった、手造りの味</p>	<p>入浴する猿と天然記念物噴泉 温泉で作る名物ちまきと山菜 地獄谷温泉 後楽館 〒381-0400 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原 地獄谷温泉 電 0269-3314376</p>	<p>お徳な情報満載!! 詳細はH.A.L.P. http://www.otbn.net</p>	<p>八ヶ岳の真ん中「ほつ」とすき焼きストリート 増原温泉で美味しいおせちの山小屋</p>	<p>料旅館 兵衛 〒601-1112 京都市左京区鞍馬貴船町101 電 075-74113066 F 075-74113166 http://www.hyoke.com/</p>	<p>オーレン小屋 〒391-0213 長野県茅野市豊平2472 電 0266-7211279 お徳な情報満載!! 詳細はH.A.L.P. http://www.otbn.net</p>
	<p>京都・奥丹波の山・川・川床料理 貴船山・鞍馬山・雄王岳・金剛山 観音峠などハイキングコースに最適 夏季は京阪駅送迎有。登山口送迎も 源流の宿</p>						

岳へ続き、展望が開けた所で昼食にした。登り返して堀坂山に到着。360度の大展望で局ヶ岳・三峰山などが絶景だ。堀坂峠で14時を過ぎており、観音岳へ急いで登った。ここからの展望もよかった。帰路、二つ目の分岐でコースを誤り、北の岩内町に下山し、森林公園へ林道を帰ったが、日が暮れていた。

◎参加者 平塚明美 木村 登 (計3名)
◎中 照行

東端 ロク口天井 (展望の山?)

9月12日(日) 晴れ
(集合)JR勝川駅7:00(車)風神社奥車止め8:30林道分岐9:30尾根—ロク口天井10:55(昼食)11:25林道出合12:50—風神社(見学・車)勝川駅15:30(解散)

道のないやぶ尾根との予想に反し、一部は歩けるが、全体的にきつかった。東方の見晴らしはあるが山の名はわからない。ルートを外して道を探りながら下山したが、途中で2人が蜂に刺された。

◎参加者 小林一世 広瀬恵美子
広瀬重見 国井文男 伊藤恵美子
高橋洋子 神谷恵美子 ◎山田明男 (計8名)

正座峰から白倉岳

(京都北山歩き140)

9月12日(日) 晴れ
(集合)JR京都駅7:40→45(バス)南桑原9:30→叫越10:10→20正座峰10:35→叫越10:50→P795手前広場11:30(昼食)12:20→鉄塔13:00→10→P892→13:40→烏帽子岳14:10→白倉岳14:30→40→中岳(台杉)15:00→南岳15:20→30→橋生16:50→17:10(バス)京都駅18:40(解散)

正座峰三角点から南東にのびてP858の鉄塔を越えて白倉岳に通じる尾根は、登山道としてあまり歩かれていない。今回46名が歩いたので跡がハッキリできたと思う。京都北山の静かな尾根を歩きたい人にはよいコースだ。時折、森ではビュ—と鹿の鳴き声が出て、イノシシのスタ場は随所にあった。

◎参加者 渡部和美 後藤純子
須藤浩子 中川光郎 小池一郎
小谷和子 塩尻香織 塚本忠次
仲谷礼司 荒木光雄 小川富士雄
長沢佑美 夏山春子 松上美代子
岡安紀征 西田俊治 岩佐 修
森井 潔 森井順子 吉岡うた子
木村絹恵 辻中 貢 林 義朗
今泉 勲 鈴木恒男 水見真砂子
吉野榮子 岩本彩子 岡崎知子
木本恭子 大嶋 勉 相生村京子
青木一雄 中川善弘 武部美美子

磯部 純 鳥田 廣 金谷 昭
加藤浩二 福本愛子 西谷真実子
福隅 章 井上恭子 多田 徳
◎狩野東彦 ◎村田智俊 (計46名)

北山トレイル西部2

山幸橋から高雄 (ゆっくり歩こう9)

9月15日(休) 晴れ
(集合)山幸橋8:45→9:00—盗人二ノ橋9:35→小峠10:15→氷室口11:05→京見山荘11:30→上ノ水峠12:05→沢ノ池12:35(昼食)13:30→梅ヶ谷林道出合14:15→白雲橋14:40→神護寺前15:00(解散)

初級者にとっては少しロングだったがゆっくりペースで無事完歩。上ノ水峠の土砂崩れは修復されていた。爽やかな風に吹かれてトレイルを踏みしめた。解散後、突然の雨に遭った。

◎参加者 林 信男 柴田慶一郎
森嶋靖子 林 義朗 君塚郁子
長沢佑美 川上久堅 後藤純子
塚本忠次 手島幸子 兼田幸子
八木爽子 加藤浩二 岩本彩子
吉野榮子 小林 桂 小林博子
高田京子 ◎加納由紀子 ◎仲谷礼司 (計20名)

北アルプス

立山三山から別山・大日岳

9月17日(金)夜→20(祝) 前夜祭2泊3日
(17日)(集合)JR京都駅22:00(夜行バス)
(18日)晴れ(バス)立山駅4:30(朝食)6:40(ケーブル・高原バス)室堂7:50→8:10→一ノ越9:10→20立山雄山神社10:30(参拜)11:00→大汝山11:20→40→富士ノ折立11:50→真砂岳手前鞍部12:10(昼食)12:40→真砂岳13:00→別山13:50→14:00→別山乗越→御前小屋14:50(泊)

(19日)晴れ(小屋)6:55→新室堂乗越8:00→旧室堂乗越8:30→奥大日岳10:05→20→七福團手前草地広場11:30(昼食)13:00→中大日岳13:40→大日小屋13:50→14:00→大日岳14:20→40→大日小屋15:00(泊)
(20日)小雨のち晴れ(小屋)6:00→大日平小屋8:00→15→牛ノ首9:20→狼ヶ馬場10:00→称名の滝登山口10:45→称名平駐車場11:00→20(バス)サンピア立山11:50(入浴・昼食)14:00(バス)草津駅20:30(解散)

雄山神社で登山の安全を祈願したせいか、稜線歩の2日間は好天に恵まれ、常に剣岳の鋭鋒、室堂平を眺めながら歩いた。夏の花は枯れて紅葉には早かったが、秋晴れのもと汗もかかず、山岳展望に酔いしれて歩いた。牛ノ首の崩壊地は仮復旧していて大日平から称名滝へくだったのが、かなりの険路だった。

◎参加者 市岡晴美 久保田玲子
大森康行 多田 徳 西谷真実子
兼子衣代 小森外松 大嶋 勉

大日岳山頂 (林 義朗)



中大日岳にて (林 義朗)



日本コバ山頂にて (〇一芝)



盤石の丘にて (〇一芝)



○仲谷礼司

○狩野東彦

林 久美子 (計25名)

9月19日(日) 晴れ
(集合)近鉄橿原神宮前駅8:05~10:00(バス)林道白馬線レーク雨嵐施設ゲート前

奥高野 城ヶ森山から龍神岳

○岩野 明

一芝美知子 〇一芝義雄 〇後藤康幸 (計24名)

平地は残暑だが山上は日本海からの涼しい風があり、黄色のアカアカネが飛び交う稜線を快適に歩いた。三重嶽方面、敦賀湾や西方ヶ岳・蝶ヶ岳、湖北方面の展望も楽しめた。

参加者

中川光郎 渡部和美

福島 昭

浅野 剛 守田光太郎

山本軍司

岩佐 修 石倉真佐子

鈴木恒男

西島芳洋 相生村京子

植村信子

岡崎知子 名加恵美子

川田洋子

宮崎靖久 宮崎由美子

上田裕子

高橋静雄 村岡雄志郎

田辺弘子

河村順子 林 久美子

9月18日(出) 晴れのちくもり
(集合)JR京都駅7:40~45(バス)マキノ林道ゲート10:00~05(黒河越)10:40~50(点名白谷)11:20(狼ヶ馬場)11:30~35(鉄塔)12:10(昼食)13:00(芦原岳)13:10(鉄塔)13:20(25)電波塔14:15(35)乗鞍岳14:45(乗鞍岳北尾根)15:15(20)愛発越登山口15:50(55)国境スキー場16:10(25)バス(京都駅)18:50(解散)

林道歩き1時間で盤石の丘に着くと、鈴鹿の山々が大バノラマ。衣掛山から湿原にくだるとマツカゼソウとイヌノヒゲが群生。ママコナの咲く日本コバで昼食。秘境の樹林をたどって明神岩に着くと、また鈴鹿の山並の絶景が展開した。

参加者

磯部 純 小川富士雄

北村 稔

高杉 博 奥野太一郎

滝川 登

上嶋秀夫 宮村信夫

栗岡克子

小松志信 吉岡うた子

永戸鉄治

木下朝子 加納由紀子

稲津謙治

池田繁美 居原田幸弘

大西脩郎

小林 修 栗本敏夫

一芝美知子

〇一芝義雄 〇後藤康幸 (計24名)

渡谷節枝 多賀久子 小林 桂
林 義朗 川戸せつ 武村千鶴
松本 博 遠藤 率 佐々木輝子
○安倉正勝 ○村田智俊 (計19名)

高島トレイル①コース
湖西 黒河峠から愛発越

(週末ハイク111)

盤石の丘・日本コバ

(鈴鹿を歩く340)

9月19日(日) 晴れ
(集合)道の駅「マーガレットステーション」8:00(車)角井峠(車)衣掛林道入口8:35(盤石の丘)9:45(衣掛山)10:35(湿原)11:00(日本コバ)11:40(昼食)12:35(19)897(13)25(明神岩)13:40(大萩)15:10(解散)

登山口11・00—1261峰11・25—城ヶ森山11・50—1234峰12・10(昼食)12・45—レータ雨量施設ゲート前13・20(バス)護摩スカイタワー13・30—護摩壇山—龍神岳14・00—護摩スカイタワー14・30(バス)野追川温泉(入浴・バス)榎原神宮前駅18・00(解散)

紅葉には少し早かったが、秋を感じる涼しさがあった。城ヶ森山の先の12347ピーク峰で自然林に囲まれての昼食を楽しみ、龍神岳では奥高野の展望を心ゆくまで楽しんだ。山里の野追川温泉で汗を流した。

参加者

- 川田位子 塚本忠次
 - 里見輝生 小栗大直 志水明美
 - 石田里美 中山賢 森井 潔
 - 狩野東彦 桜庭 栄 前川和佳子
 - 繁田広美 今泉 勲 沖 伸
 - 池田繁子 浅井良三 ○下郡正年
- ◎西上利和 (計18名)

余興トレイル

湖北 柳ヶ瀬山から椿井嶺

9月23日(祝) 雨のちくもり

(集合) JR木之本駅8・45(車)
柳ヶ瀬9・30—柳ヶ瀬山10・30—椿井嶺
落分岐11・30(昼食)12・30—P559
峠(杵谷)13・15—椿井嶺14・25—椿井
峠15・05(車)柳ヶ瀬15・40(解散)
落雷で大阪からの電車が一時不通。
急ぎよキャンセルが相次いだ。栗の

食ベカスがいっぱいあって近くに熊がいて皆熊を目撃した。玄蕃尾城跡は、桜の季節にもう一度行きます。

参加者

- 堀江房麿 藤元昭余志
 - 高杉 博 西田俊治 谷内智恵美
 - 平塚明美 谷 守 中澤典司博
 - 神野孝允 加藤園計 中澤美香子
 - 池田繁美 石原君子 ◎高島伸浩
- (計14名)

湖北 河内山から板ノ木峠

9月23日(祝) ◎村田智俊

*雨天のため中止しました。

大崎 不動池(点名)

9月23日(祝) ◎西上利和

*バス定員未満で中止しました。

高島トレイル⑥コース

湖西 武奈ヶ嶽から水坂峠

(週末ハイク112)

9月25日(出) 晴れ

(集合) 京都駅7・40(バス)石田川ダム9・30—40—ワサ谷橋登山口9・50—P47
8—10—20—武奈ヶ嶽北尾根11・20
—25—武奈ヶ嶽11・50(昼食)12・40—
赤岩山13・15—20—赤岩山分岐13・25—
P620—13・45—水坂峠15・05—20(バ

◎京都駅17・15(解散)

秋晴れに恵まれて予定より早いペースで歩くことができた。武奈ヶ嶽手前の稜線からはトレイル北端の乗鞍岳まで見渡せ、青葉山や西方ヶ岳、蝶ヶ岳、伊吹山から美濃の山、湖東の山などの展望が楽しめた。

参加者

- 渡部和美 佐々木輝子
 - 小石浩子 下郡正年 山盛加奈子
 - 加藤浩二 福島 昭 加納由紀子
 - 岡本正明 志水明美 大園加代子
 - 浅野 剛 稲津謙治 武部美美子
 - 堤 良男 澁谷節枝 林 久美子
 - 辻中 貢 川田洋子 氷見真砂子
 - 岩本彩子 岡崎知子 船本裕巳子
 - 馬淵晶子 ○仲谷礼司 ◎狩野東彦
- (計26名)

湖北 伊吹古道歩き

(平日お花見山行7)

9月27日(月) 晴れ

(集合) JR関ヶ原駅8・35(車)弥高集落9・00—平野神社—林道終点10・20—弥高寺跡10・40—大堀切跡11・10(昼食)11・40—行者谷—林道終点12・00—駐車地12・50(車)泉神社13・10(車)関ヶ原駅13・50(解散)

弥高集落から昔の道を使って林道へ出て、伊吹五合目へのルートをとって大堀切跡で食事した。行者谷経由でくだったが花は少なかった。

上の方はササが刈られて見晴らしも良くて、我々のために手入れしてもらったように思われた。

参加者

- 金森節子 岩澤裕子
 - 竹田勝英 木村 豊 松上美代子
 - 栗栖崇吉 川島勝美 島田 廣
- ◎山田明男 (計9名)

北摂 最勝ヶ峰から箕面

(火曜ハイク73)

9月28日(火) ◎仲谷礼司

*雨天のため中止しました。

百蔵ろくろ山から三十三間山

9月30日(木) ◎寺井恒夫

*雨天のため中止しました。

大崎 板尾山から天和山

9月30日(木) ◎西上利和

*雨天のため中止しました。

播磨 七種山

10月2日(出) ◎中 照行

*申込者少数で中止しました。

千種越のシデの大木の下で休憩 (〇一芝)



堂山に登る (森井 潔)



ダイジョウ山頂にて (〇一芝)



佐目峠で昼食 (〇一芝)



湖南アルプス
笠間ヶ岳から堂山

(金曜里山ハイキング32)

10月2日(出) 晴れ

(集合) JR石山駅 9:30 → 40 (バス) 上岡
バス停 10:00 → 新茂智神社 10:05 → 20
林道出合 11:20 → 笹間ヶ岳 11:40 (昼
食) 12:30 → 大谷河原 13:00 → 御仏河原
13:20 → 天神川林道 13:50 → 14:00 → 天
神川ダム 14:10 → 分岐 14:25 → 浅見尾根
→ 鏡ダム道出合 15:10 → 堂山 15:35 → 45
→ 新免分岐 15:55 → 堰堤 16:00 → 五味谷
→ 天神川ダム 16:30 → 40 → アルプス登山
口 16:50 → 17:02 (バス) 石山駅 17:30 (解散)

笹間ヶ岳の八畳岩から湖東の大パ
ノラマを見て、いったん天神川へ下
り立ち、天神川ダムから浅見尾根コ
ースを堂山へ登った。下山は五味谷
コースをくだり、周回したことにな
った。露岩が目立つアルプスの景観
の道はおもしろくて飽きない。山遊
びにはもってこいだ。

参加者

川島榮子	今泉 勲	長沢佑美	宮村信夫	柳川常雄	高島春美	川島勝美	繁田広美	木内範文	森井 潔	石倉真佐子
和田直樹	岩本彩子	金谷 昭	金森節子	須藤浩子	安井昇太	大川直澄	兼子衣代	山本幸子	中嶋日出男	名加恵美子
上野秀夫	中 照行	西谷真実子	林 義朗	山崎早智子	山崎みよ子	北川さゆり				

山高多恵子〇山高義治

〇村田智俊
(計32名)

イブネ・ダイジョウ

(鈴鹿を歩く34)

10月3日(日) くもりのち雨

(集合) 藤切谷旧林道入口 8:00 → 桜地蔵
8:50 → シデの大木 9:35 → 杉峠 11:00
→ 佐目峠 11:45 (昼食) 12:20 → ダイジ
ョウ 13:30 → 池 13:40 → 藤切谷 15:25 →
林道入口 16:20 (解散)

杉峠へと続く千種越には桜地蔵か
ら先に三ヶ所の山小屋が建てられ、
道も整備されている。シデの大木、
古木の並木、ミズナラの巨木は古代
から続いた街道の面影を残していた。
杉峠から佐目峠に着くと強風とガス
で何も見えない。アゲンキョウから
ダイジョウ、池、そして藤切谷へと
秘境の尾根を一気に歩いた。

参加者

磯部 純	武村千鶴	小川富士雄
多田 徳	滝川 登	加納由紀子
栗本敏夫	稲津謙治	白木やす子
谷 守	水戸鉄治	奥野太一郎
小松志信	大西脩郎	中澤與司博
加藤國計	北村 稔	居原田幸弘
池田繁美	高杉 博	一芝美知子
〇岩野 明	西村敏夫	〇一芝義雄

(計24名)

北山トレイル東部2

山幸橋から戸寺(ゆっくり歩こう10)

10月6日(水) 晴れ

(集合)山幸橋8:45~9:05 尾根取付
9:40 向山10:20 夜泣峠10:40 二
ノ瀬駅11:25 (電車)鞍馬駅11:30 薬
玉坂12:00 (昼食)12:50 静原神社13:
30 江文峠14:10 戸寺バス停15:00 (解
散)

バスの関係で逆コースに歩いたが
このほうが楽である。二ノ瀬 鞍馬
間の車道は危ないので電車を利用し
たが、トレイルとしては、この区間
の整備が望まれるところである。花
のない道であった。

参加者

- 兼田幸子 浅野 剛 中嶋日出男
林 義朗 夏山春子 金森節子
卷田 晃 森嶋靖子 中山 治
本間 隆 大野宣子 柴田慶一郎
八木爽子 本間黎子 守田光太郎
小林 桂 堀家洋子 手島幸子
金谷 昭 ○沖 伸
仲谷礼司 (計21名)

高島トレイル⑥コース

朽木 水坂峠から横谷峠

(週末ハイク113)

10月9日(出)

○狩野東彦

*雨天のため中止しました。

上越 火打山と妙高山

10月9日(出) 11日(祝) 2泊3日

(9日)雨 (集合)JR京都駅7:40(バス)

戸隠高原15:00(バス)妙高山ノ平温泉(香

風館)16:40(泊)

(10日)晴れ 旅館7:30(バス)笹ヶ峰8:

15 30 黒沢9:30 十二曲り道標10:

10 20 富士見平11:25 高谷池ヒュッ

テ12:05 (昼食)12:40 黒沢池分岐12:

45 (ザックデポ)火打山14:15 30 黒

沢池分岐15:30 茶臼山16:00 黒沢池

ヒュッテ16:30(泊)

(11日)雨のち晴れ ヒュッテ6:20 大

倉乗越6:45 燕新道出合7:20 30

1 妙高山9:20 40 鎮場10:00 天狗

堂10:40 林道出合11:00 赤倉登山道

入口11:10 スカイケーブル山頂駅12:

30 (ケーブル)下駅12:45 13:00 (バス

赤倉ホテル13:10 (入浴・昼食)14:55 (バ

ス)JR米原駅21:15(解散)

新潟地方は、三連休雨模様の子報

だったが、山行2日間は青空が広が

り、二山共に大パノラマを展望する

ことができた。紅葉もラッキーで最

盛期の彩り。行程も予定通り歩け、

百名山二つを満喫した。

小森外松 山本幸子 大嶋 勉

○宮野哲郎 ○安倉正勝

○村田智俊 (計23名)

関東 烏帽子山 (展望の山73)

10月10日(日) くもり一時雨、時々晴れ

*前日の大雨で飯盛山に変更した。

(集合)JR大垣駅9:00 (車)久瀬登山口

9:45 林道終点11:00 飯盛山11:50

(昼食)12:25 林道終点13:00 駐車地

点13:45 14:00 (車)大垣駅14:45 (解散)

林道歩きで、ムカゴ・アケビが採

取できた。2人來られたが、キノコ

採りの人だった。林道が新しくなっ

て、終点から山道が平成14年に整備

されていた。

参加者

- 広瀬重見 広瀬恵美子
神谷恵美子 ○山田明男 (計4名)

大峰 石仏山

10月10日(日) ○西上和

*バス定員未済で中止しました。

湖北 伊吹山古道歩き

(平日お花見山行8)

10月11日(祝) 晴れ

(集合)JR関ヶ原駅8:30 (車)伊吹山

ドライブウェイ七合目9:00 山頂周遊

道10:45 山頂駐車場11:15 (昼食)11:

45 伊吹山12:30 周遊道から下山開始

13:15 駐車場14:00 (車)静馬ヶ原14:

15 (車)関ヶ原駅15:00 (解散)

今年最後の平日お花見山行だが、

祭日に当たり10人で行けた。意外と

花は少ない。それでも写真を見たら

いろいろ写っていた。ブログに載せ

ているので、新ハイ関西のホームペ

ージから見たい。山頂測候所が

取り壊しになっている。積雪の世界

記録はここで観測されている。

参加者

- 武村千鶴 堀江房磨
前田初雄 前田邦子 竹田勝英
栗栖崇吉 川島勝美 広瀬恵美子
広瀬重見 ○山田明男 (計10名)

西山トレイル

清滝から西芳寺

(ゆっくり歩こう11)

10月13日(水) 晴れのちくもり

(集合)清滝バス停9:20 30 落合10:

00 書物岩10:15 鳥居本10:55 亀山

公園11:40 (昼食)12:30 松尾山登山

口13:05 松尾山14:00 若寺谷登山口

15:00 阪急松尾駅15:35 (解散)

トレイル最終コースは、愛宕門前

から内部を覗きながらの観光気分。

後半は低い山とはいえ、食後からの

登りは気分的に重いものがあったが、

妙高山頂にて (多田 徳)



笹ヶ峰から木道を黒沢へ (多田 徳)



迷岳山頂にて (岡本正明)



大天井ヶ岳にて (西上)



無事完歩。京都トレイルの各区分は意外と長く、歩き慣れない人には足への負担が大きいに感じた。

参加者

- 浅野 剛 中嶋日出男
- 兼田幸子 君塚郁子 守田光太郎
- 林 信男 加藤浩二 柴田慶一郎
- 清 紀嘉 中岡昌子 川上久堅
- 森嶋靖子 夏山春子 山盛加奈子
- 本間 隆 本間黎子 ○沖 伸
- 仲谷礼司 (計18名)

大天井ヶ岳から岩屋峰

10月14日(休) 晴れ

(集合)近鉄橿原神宮前駅 8:05 ~ 10:00 五番関(明夫道) 10:00 ~ 10:25 大天井ヶ岳 11:30 (昼食) 12:25 ~ 13:28 岩屋峰 13:15 ~ 大原山 14:15 ~ 15:00 かがね橋駐車場 14:50 (バス) 橿原神宮前駅 16:30 (解散)

いつもなら五番関南口トンネルの東屋から取り付くのだが、今回はトンネルをくぐり北口の明夫道登山口から女人結界門に取り付いた。山頂に近づくにつれブナやカエデの紅葉が鮮やかに色づき、日々深まる秋を感じながら、かがね橋までの縦走を楽しんだ。

参加者

- 渡部和美 中江南海雄
- 別所 昊 小栗大直 稲津謙治
- 中山 賢 竹田勝英 前川和佳子

- 狩野東彦 志水明美 島田 廣
- 岩澤裕子 今泉 勲 佐藤優美子
- 古山幸男 林 正義 平田輝美
- 金森節子 田中 操 瀧川佳秀
- 西嶋芳洋 河村順子 浅井良三
- 下郡正年 ○西上利和 (計25名)

台高支脈 迷岳

10月16日(休) 晴れ

(集合)近鉄榛原駅 8:30 (バス) 蓮ガム新林道尾根広場 9:40 ~ 45 P536 休み場峠 10:15 ~ 25 崩壊地 11:30 山ノ神 12:00 (昼食) 12:30 飯場跡 12:40 尾根取付渡渉点 12:45 北西直登尾根 14:00 ~ 30 唐谷分岐 15:00 唐谷出合 15:30 ~ 40 唐谷林道終点 16:00 遊び広場上入口 16:30 ~ 35 (バス) スメール 16:45 (入浴) 17:30 (バス) 榛原駅 18:35 (解散)

蓮ガムから林道が造設され、尾根上から峠の休み場へ行った。平瀬橋から登るより約30分短縮できた。古い登山道は荒れているが踏跡はしっかりしていて予定通りのタイムで山ノ神に着いた。布引谷上流の飯場跡から尾根に取り付き、急登して迷岳に直接登った。下山は一般コースを唐谷林道にくんだり、スメールで汗を流して帰途についた。

参加者

- 渡部和美 中江南海雄
- 片桐良子 木下朝子 濱本美和恵

川戸せつ 岩佐 修 氷見真砂子
 三野 旭 萩野暢子 相生村京子
 辻中 貢 繁田広美 高橋舜治
 岡本正明 道広直暉 杉本多美雄
 田辺弘子 渡辺雅人 北川さゆり
 中川善弘 ○宮野哲郎 ○安倉正勝
 ◎村田智俊 (計24名)

〔参加者の感想〕

●登路は廢道に近い不明瞭な登山道だった。谷筋に架かる杉丸太橋のタワミに心臓がひやり。崖を下りるのに1計の高さを「飛べ」とのリーダーの声にやっぱりヒヤヒヤ。バランスの悪さを痛切に感じた。直登の先に山頂があり、おにぎり・ホットコーヒーがおいしかった。紅葉の始まった木々、滝の音、大文字草、見返草、秋丁字、人字草、曙草などがやさしく咲いている奥深い迷岳だった。(氷見真砂子)

●名の通り迷ってしまいそうな山だった。布引谷ルートは地図に載ってなく、予定と違って新しく出来た工事道路の小屋裏から取り付いた。いくつもの谷を渡渉し、ロープで急坂を山ノ神に登ったあと、リーダーは「この尾根を登れば頂上だ」と……。さすがでした。下山は正規ルートで急坂が終わってほっとした頃、唐谷林道終点への登り口で後ろの人が間違っ直進してしまった。最後まで迷い岳でした。(川戸せつ)

ヒキノ・旭山・東山

(鈴鹿を歩く342)

10月17日(日) 晴れ

(集合) 水源寺町役場7・55(車)小又谷
 出合広場8・40ノタノ坂9・25ヒキノ
 ノ10・40初秋樹林の森11・40(昼食)
 12・30旭山12・50東山14・00キート
 ラ山往復14・20政所15・30(車回収)
 16・13(解散)

ノタノ坂から鉄塔巡視路をたどり、尾根の上り下りを繰り返す。紅葉のグラデーションを帯び始めた二次林と植林の合間に御池岳や静ヶ岳の雄姿を見る。愛敬ものはきのこで、食い気の張った登山者は白マイタケを逃がさない。夏から秋への季節の變化を風が教えてくれた。(中澤美香子)

参加者

鈴木恒男 武村千鶴 吉岡うた子
 多田 徳 高橋舜治 中澤美香子
 磯部 純 稲津謙治 中澤美香子
 滝川 登 高原芳彦 小川富士雄
 小松志信 宮村信夫 奥野太郎
 多賀周二 多賀久子 居原田幸弘
 上野秀夫 西村敏夫 石田真由美
 大西脩郎 栗本敏夫 加納由紀子
 小林 修 一芝美知子 ○一芝義雄
 ◎後藤康幸 ◎岩野 明 (計31名)

明神山

10月17日(日) 晴れ

(集合) JR加古川駅8・30(バス)明神湖
 畔駐車場9・35(バス)取付9・55大岩
 下10・15P398西峰11・00V字キ
 レット鞍部11・35P398東峰11・50
 (昼食)12・25大蛇窟西の小明神捲く
 明神山14・00(バス)岩屋池夢やかた
 15・40(バス)加古川駅17・15(解散)

参加者

木内範文 小池一郎 塩尻香織
 上住忠雄 栗栖宗吉 佐々木輝子
 石田賢二 藤村勝彦 池田美恵子
 ◎古賀慶二 (計12名)

〔参加者の山行記〕

●明神山への裏側コースの例会に参加した。あまり歩かれていないようだ。きょうは、明神山愛好会のOさんが特別参加。昔生ダム周辺は整備され、トイレもある。

車道を5分程行くと、P398への取付に着く。急斜面を登り、車窓から見た大岩の下にたどり着く。溶岩が流れたような岩肌を捲いてロープを頼りに直登の連続だ。下降はまさにクライミング気分。気を引き締めて岩場を通過。鞍部から捲くように登り、やっとP398の岩場に着く。そこは眺めもバツグン。眼下に明神湖、向かいには先ほど通過した岩場が見えている。

山の峰々を楽しみながらの昼食タイム。リーダーから畑でつくった枝豆をいただく。豆もふっくらと甘い。予定時間をオーバーしたため、西の

小明神は捲道で通過する。途中、明神の大蛇窟を見に行く。迫り出した大岩はまさに圧巻である。尾根道に戻り、ガラガラの石の道を登り、一般登山道と合流して急坂を登ると明神山に着く。山頂には嶽大明神が祀られている。そして播磨館には「明神が嶽は播州の高山で、その姿は大変美しく、旅人は馬上よりかえり見、海行く人は船上より眺め尽くした」とある。

360度の大展望で、北には氷ノ山、但馬の山々に雪彦山。東に笠形山、七種の山々。南には書写山、瀬戸内が霞む。ここで、先を急がれるOさんは一足先に下山される。私達は展望を楽しみ、A・B・C各コースのBコースを下山する。急なくだりで滑りやすい。滑滝は水量が無く、まるで濡れた沢のようだ。林道に出て、岩屋池に映る逆さ明神山を眺め、達成感に浸る。

夢やかたでビールや蕎麦でお腹を満たし、色とりどりのコスモス畑に秋を感じながら帰途に着いた。(池田美恵子)

黒石岩からキワダズコ

10月21日(木) くもり時々小雨
 (集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05(バス)黒石岳登山口10・10林道出合11・36(バス)黒石岳11・10(往路)



黒石岳登山口14・10(バス)入之波温泉「山鳩湯」15・00(入浴・バス)権原神宮前駅17・00(解散)

あいにくの天候で雨具を着けての山行となった。植林のなかの黒石岳はガスに包まれ、展望も無いので早々にバスに戻って昼食をとった。食後、雨も上がったが寒く、そのままの雨具でキワダズコに登った。自然林が多く紅葉が楽しめた。帰路「山鳩湯」で汗を流した。

- 参加者**
- | | | |
|------|------|-------|
| 別所 吳 | 加藤浩二 | 中江南海雄 |
| 小栗大直 | 長沢佑美 | 松上美代子 |
| 田中 操 | 今泉 勲 | 前川和佳子 |
| 川上久堅 | 榎場君子 | 粟飯原通弘 |
| 河村順子 | 信吉 優 | 粟飯原幸子 |
| 渡部和美 | 小野和良 | 鮫田二郎 |
| 西上和利 | | ○下郡正年 |
- (計21名)

丹波三岳から小金ヶ岳

10月23日(出) ○中 照行

*申込者少数で中止しました。

余呉トレイル

湖北 椿井嶺から河内山

10月23日(出) ○高島伸浩

*リーダーの都合で10月30日(出)に変更したが、当日台風のため中止しました。

鈴鹿 白杵山・白杵ヶ岳

(三重の山109)

10月23日(出) くもり

(集合)望仙荘前9・00(車)船石林道登山口9・15―白杵岩10・15―白杵山―白杵ヶ岳11・00(昼食)11・35―かもしか高原12・00―安楽峠12・30―船石林道登山口13・30―45(車)望仙荘前14・00(解散)

登り始めて間もなく、下山の男性3人連れと出会った。手ぶらだったが懐から数本の松茸を出して見せてくれた。これを肴にこれから一杯やるのだという。一同俄然色めき立ったのだが、収穫は果して……。尾根までの急登はきつかったが稜線からの展望は良好。鹿の糞を避けながら野菊を愛でながら、埃茸の群生に驚嘆しながらの賑やかな山行だった。

- 参加者**
- | | | |
|------|------|-------|
| 平 龍一 | 水戸鉄治 | 石田真由美 |
| 高原芳彦 | 平 幸子 | 中澤興司博 |
| 織田定則 | 宮村信夫 | 中澤美香子 |
- 稲垣逸夫 (計10名)

湖北 板ノ木峠から音波山

10月24日(出) くもりのち雨

(集合)JR京都駅7・40―45(バス)板ノ木峠ベルクススキー場入口10・00―15―見晴らし鉄塔11・00―巡視路分岐鉄塔11・30―音波山12・00(昼食)12・40―下谷山800(手前)13・20―35―(往路)―

ベルクスキー場入口15・50〜16・00（バス）京都駅19・30（解散）

巡視路分岐鉄塔から尾根に入るとブナ林が立ち並ぶ原生林となり、30分で音波山。食後、下谷山を目指してさらにブナ林を進むが、午後から降雨予報で13時30分を目途に引き返す。引返点で小雨が降り出し、下山道で本降りとなった。色づき始めたブナ林は美しく、どこまでも歩き続けたい心境だった。

- 参加者**
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 中川光郎 | 後藤純子 | 山崎みよ子 |
| 木村 豊 | 小石浩子 | 大團加代子 |
| 後藤智之 | 竹内正子 | 村岡雄志郎 |
| 大槻一夫 | 妹尾一正 | 武部美美子 |
| 長沢佑美 | 岩佐 修 | 中嶋日出男 |
| 森井 潔 | 三野 旭 | 山盛加奈子 |
| 島田 廣 | 緒方由子 | 名加恵美子 |
| 鈴木恒男 | 山高義治 | 吉岡うた子 |
| 多賀久子 | 岩村春子 | 山高多恵子 |
| 高橋舜治 | 後藤康幸 | 橋本紀代子 |
| 市岡晴美 | 大嶋 勉 | 林 久美子 |
| 渡部和美 | 青木一雄 | 多田 徳 |
| ○宮野哲郎 | ○村田智俊 | ○狩野東彦 |
- （計40名）

北関 歌垣山から小和田山

（火曜ハイク74）

10月26日(火) くもり一時雨
 (集合) J R 京都駅 8・15 (バス) 堀切峠
 9・50〜10・05 歌垣山 10・40 農協前
 11・20 歌垣神社 11・40 涅槃の像林道

12・10 (昼食) 12・50 七面山 13・35 釈迦ヶ嶽 14・00 小和田山 15・00 岩石峠 15・50 (バス) 京都駅 17・30 (解散)

七宝寺裏からの道はこの夏の大雨の影響で相当に荒れていた。特に小和田山への道はササが背丈ほどにのびてやぶ漕ぎ同然と化し、イバラの棘を気にしながらの登頂となった。

- 参加者**
- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 加藤浩二 | 浅野 剛 | 塚本忠次 | 守田光太郎 |
| 里見純生 | 木内範文 | 長沢佑美 | 水本加津菜 |
| 上住忠雄 | 三井絃一 | 須藤浩子 | 林 久美子 |
| 川上久堅 | 大和 絃 | 磯部 純 | 船本裕巳子 |
| 兼田幸子 | 小林 桂 | 渡部和美 | 小坂さゆり |
| 清 紀嘉 | 若林文夫 | 清 紀嘉 | 大團加代子 |
| 夏山春子 | 若林史寛 | 仲谷礼司 | 大林 進 |
| | 岡田かよ子 | | 青木一雄 |
| | ○金谷 昭 | | 妹尾公代 |
| | | | 岡田かよ子 |
- （計36名）

台高 大熊谷の頭

10月28日(木) ◎西上和
 *雨天のため中止しました。

湖西 滝谷山から大谷山

10月30日(土) ◎狩野東彦
 *台風のため中止しました。

奥美濃 蝶帽子嶺

10月30日(土) ◎鷺見守康
 *リーダーの都合で中止しました。

飯南 庄司峠から局ヶ岳

10月30日(土) ◎村田智俊
 *台風のため中止しました。

海外特別企画

台湾 南湖大山

10月17日(日)〜22日(金) 5泊6日
 <17日 雨> (集合) 関西空港 11・20〜13・10 (飛行機) 台北空港 13・55 (バス) 桜蘭山荘 16・55 (泊)
 <18日 雨> 山荘 7・20 (バス) 思源勝光登山口 9・10〜20 山道入口 9・50〜七一〇 林道出合 11・03 登山口 11・48 (昼食) 12・20 多加屯水利三角点 14・25 木杆鞍部 16・10〜15 新雲稜山荘 16・40 (泊)
 <19日 雨のちくもり> 山荘 6・15 審馬陣山 9・30〜40 審馬陣山荘 10・07 (昼食) 10・45 南湖北山 12・10〜15 南湖大山北峰 13・40 南湖山荘 14・15 (泊)
 <20日 晴れのちにわか雨> 山荘 4・00 東峰分岐 4・48 南湖大山 5・45〜6・15 南峰分岐 6・45 東峰分岐 6・52〜7・00 南湖山荘 7・25 (朝食) 8・45

北峰 9・30〜35 南湖北山分岐 10・35〜50 審馬陣山荘 11・30 (昼食) 12・15 審馬陣山入口 12・40 審雲稜山荘 14・20 (泊)
 <21日 雨> 山荘 6・15 木杆鞍部 6・35 多加屯山三角点 8・20 水利三角点 8・47〜50 登山口 10・00〜10 思源登山口分岐 10・43 下山道入口 10・55 思源勝光登山口 11・35〜12・00 (バス) 桜蘭山荘 13・20 (昼食) 15・00 (バス) 台北王朝大酒店 (泊)
 <22日 雨> 王朝大酒店 9・30 (バス) 中正記念堂・龍山寺見学 (バス) 台北市内飲茶店 11・50 (昼食) 12・50 (バス) 台北空港 13・40〜16・25 (飛行機) 関西空港 19・50 (解散)
 18日朝、桜蘭山荘を出発時の雨の降りから入山可能を心配したが、入山禁止令は出なかった。登山道は思源登山口から0・1、毎に里程柱が立っていた。21日下山後のニュースで台風13号は台湾へ影響した今年最大のものだと知った。南湖大山アタック時は奇跡的に晴天に恵まれ、360度の展望を堪能した。南湖山荘は中央アルプス千畳敷カールを二つ合わせた規模の底部に存在し、東峰分岐から南には上部カールが形成された上下二段カールという、雄大な規模の山であった。山頂から見えた台形状のピーク大霸尖山には登山意欲をそそられた。

参加者 浅野 剛 入江 勲
 岡崎知子 白鳥忠子 田辺弘子

音波山ブナ林 (鈴木恒男)



音波山登山道のリンドウ (鈴木恒男)



伽倻山 (村田)



俗離山 (村田)



伽倻山には法性寺、伽倻山には海印寺が山麓にあり、特に世界遺産の海印寺の八萬大蔵経が取められた庫裏は一見の価値がある。山頂は共に岩峰が連なり、岩上からは大パノラマ

11月1日(月)〜4日(木) 3泊4日
(1日 晴れ) (集合) 関西空港 10・45〜12・45 (飛行機) 釜山空港 14・00〜40 (バス) レイクヒルズ俗離山ホテル 17・40 (泊)
(2日 晴れ) ホテル 8・00―法住寺 8・30―50―文蔵台分岐 9・20―30―毘盧峰直下分岐 11・15―25―俗離山(天皇峰) 11・40 (昼食) 12・20―神仙台休憩舎 13・50―14・00―文蔵台 14・20―50―オンソ橋 16・15―25 (バス) 伽倻山海印寺観光ホテル 18・45 (泊)
(3日 晴れ) ホテル 7・55 (バス) 登山口 8・00―海印寺 8・30―9・00―10・20―10・00―10―奉天台 11・15―25―伽倻山(上王峰) 11・55 (昼食) 12・30―七星峰 12・45―50―西将台 13・30―40―白雲洞伽倻ホテル 15・20 (入浴) 16・30 (バス) 東横イン釜山ホテル 19・30 (泊)
(4日 晴れ) ホテル 7・50 (バス) 釜山空港 8・30―11・20 (飛行機) 関西空港 13・00 (解散)

韓国 俗離山と伽倻山

(韓国の山旅シリーズ④)

- 仲谷礼司 林 正義 前田喜久子
馬淵晶子 村井寿和 牧野恒夫
狩野東彦 (計12名)

伽倻山海印寺 (村田)



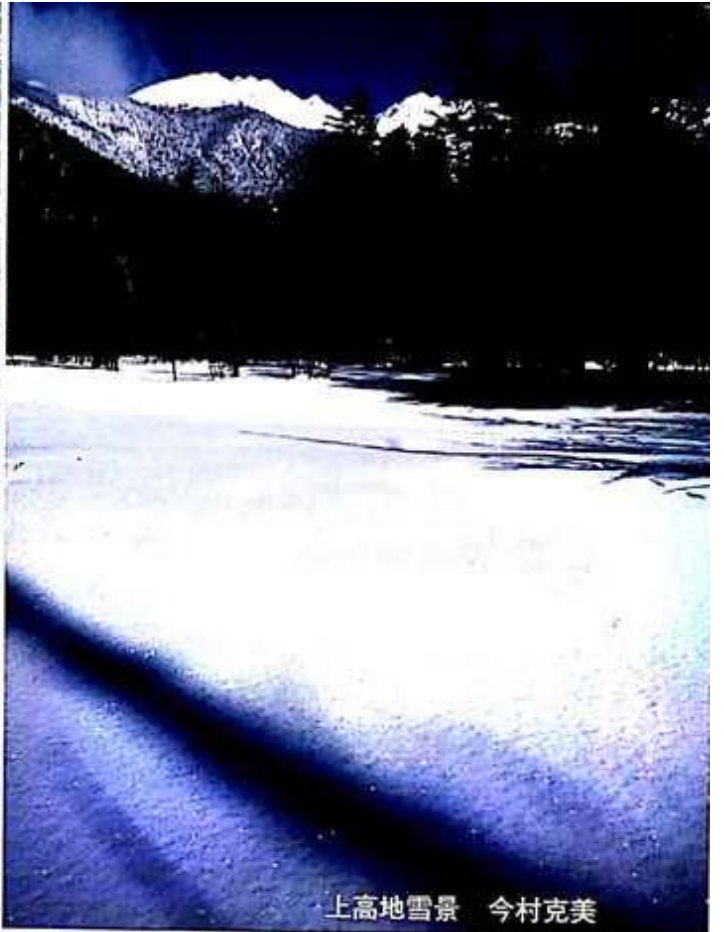
- 参加者
- 杉野茂樹 高島伸浩 南 すみ子
 - 南 利憲 田辺弘子 竹腰富美江
 - 狩野東彦 宮崎靖久 宮崎由美子
 - 山縣 隆 竹田勝英 前田喜久子
 - 山縣勝美 村田智俊 (計14名)

(9・10月の参加者 延652名)

が広がった。4日間晴天に恵まれ、紅葉も見頃で錦秋の山が満喫できた。



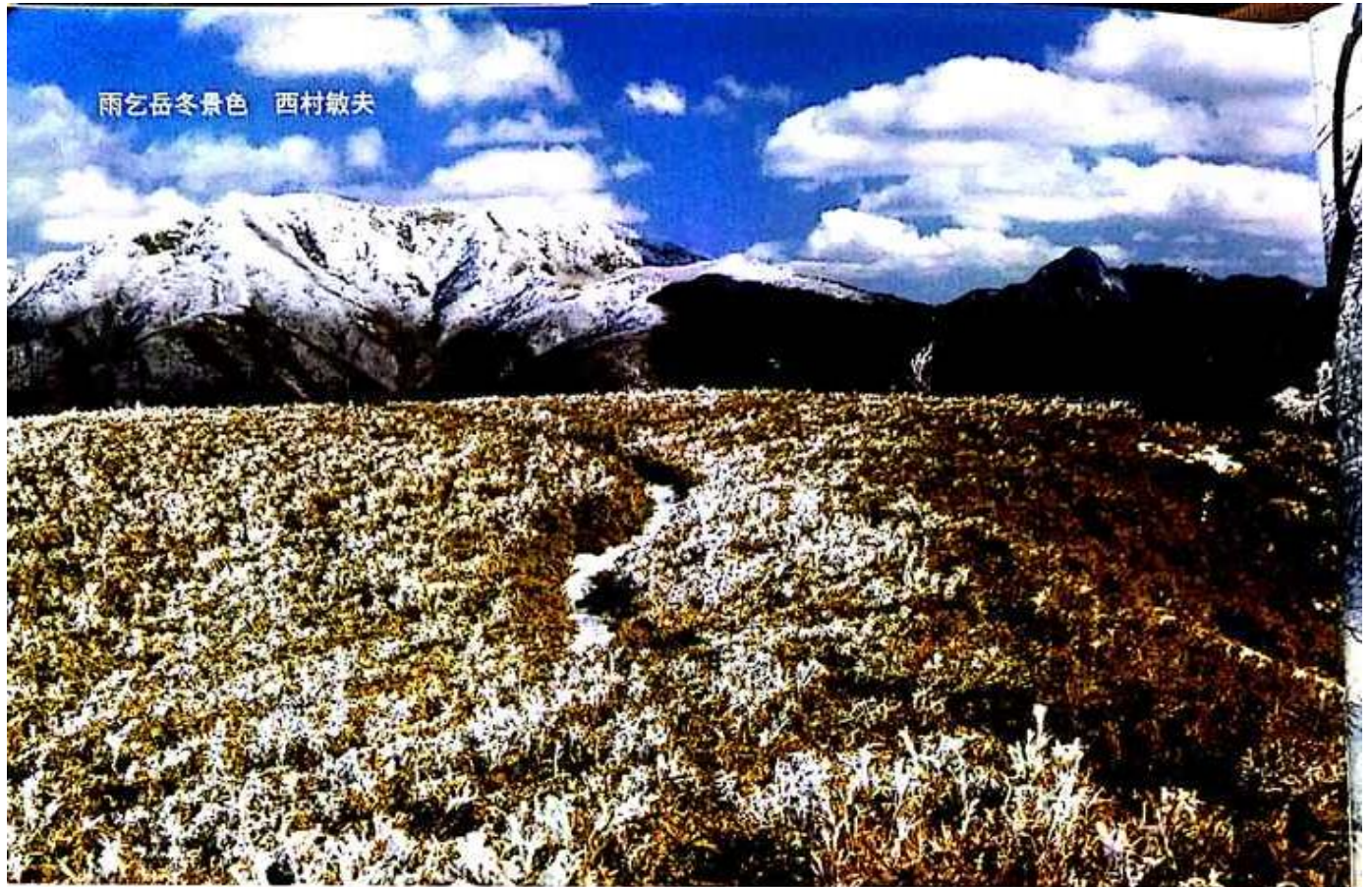
冬の杉坂峠 一芝義雄



上高地雪景 今村克美



三島池より凍てつく伊吹山 高岡富美子



雨乞岳冬景色 西村敏夫



繖山から猪子山 長宗清司

原稿募集

会費募集

新ハイキングクラブ関西では次の要領で、原稿・写真を募集しています。

◇原稿用紙・ネガフィルムで、またはEメール（添付）でお送りください。

◇パソコン原稿の場合は、データ（FD・CD）を同封ください。

紀行 3000字程度（400字詰7〜8枚）

コースガイド 1500字程度（400字詰4枚）

随想 1900字程度（400字詰5枚）

*紀行・コースガイドは、地形図上の略図コピー、写真2〜3枚、文末に歩いた年月日・コースタイム・地形図名を明記してください。

*写真は未発表のもので、題目・撮影場所・撮影年月日を明記してください。

イラスト・カット 当誌にふさわしいものを送ってください。

山行計画関連 リーダーの方は、登山対象の山の写真があれば、計画書に添付してお送りください。

山行例会関連 例会に参加された方は、写真・参加後の感想文（1000字程度）をお送りください（略・匿名は不可）。

原稿・写真の掲載使用料は、特別に当会より依頼したものを以外は、すべて無料扱いとなります。ご了承ください。

原稿はすべて新ハイキングクラブ関西へお送りください。

○山行係（リーダー）募集

経験のある方、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「リーダー必携」をお送りします。

○「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうち活動しています。関西は平成3年秋発足で20年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。会員になれば当会のイベントに参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。

会員には会報誌「新ハイ関西」（隔月刊・年6号発行）を毎月お届けします。

係（リーダー）はすべて無償の奉仕で、各自分で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

四季の自然に触れながらの山歩きからウォーキングまで、ハイキングを通じて若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。

入会金 500円（ワッペン共）

年会費 3300円（送料共）

入会の申し込み（随時）は、この会誌に挿入の振替用紙をご利用ください。

●お友達への住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイ関西」を参考資料として無料で送ります。

経験のある方、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「リーダー必携」をお送りします。

○新入会員紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号5573〜5592番まで

敬称略

〔三重〕 野呂 秀 海老原陸治

〔滋賀〕 増山元彦 村瀬和美

〔京都〕 米山靖弘 河原 彰

寸田 崇 手島幸子

〔大阪〕 中川義康 橋本紀代子

柴田昭彦 日高良一

秀田順子 大西世津子

〔奈良〕 柳 明子 関口博子

〔兵庫〕 村井武雄 浦岡せつ子

〔岡山〕 難波洋一

〔広島〕 高木 愛 (20名)

◆本号掲載広告索引◆

△メーカー▽

モンベル.....表4

△山用品店▽

神戸ザック.....39

△山の旅行社▽
アルパインツアーサービス.....表2
トラベル・ギャラリー旅の本棚.....表3
△山岳書籍▽
ナカニシヤ出版.....25

◆バックナンバー◆

1号から11号（6・15・19・20号は品切れ）

のバックナンバー在庫あります。ご希望の方は、挿入の振替用紙で誌代分を送金

のうえお申し込みください。定価は33号

までは450円、34号からは500円、

64号からは530円、98号からは560

円（送料は当会で負担）。

●次117号（3・4月）は2月15日配布

◆訂正とお詫び◆

●左記の通り訂正します。

115号（晩秋）

*グラビア1ページの写真説明文は「赤

く熟すミヤマガマズミ（鈴鹿県境尾

根）で、2ページの説明文は「秋の空

に映えるマユミ（御池岳丸山山頂）」が

正しい（逆でした）。

*107ページの下段2行、「橋本加代子」

「橋本紀代子」

●本誌掲載の「参考付近図」は、国土地理院発行5万分の1、及び2万5千の1の地形図を使用して作成したものである。

新ハイキングクラブ関西
代表 村田 智俊
(本部・編集室) 〒610-0121
京都府城陽市寺田大町10-10
TEL(FAX共) 0774(53)2754
(振替口座) 新ハイキング関西
口座番号 01040-7-70356 番
http://web1.kcn.jp/shinhaikansai
Eメール: shinhaikansai@kcn.jp

●DTP 株式会社エスティープロダクション
●印刷製本 株式会社 大洋社